

旭川市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会
(令和5年度第4回)

審議事項 第2号

高齢者バス料金助成制度(寿バスカード)の見直しの検討と市民の意識調査の結果について

高齢者バス料金助成制度（寿バスカード）の見直しの検討と 市民の意識調査の結果について

1 高齢者バス料金助成制度の目的と内容

高齢者の積極的な社会参加と健康の維持増進を図り、生きがいのある生活を援助することを目的として、70歳以上の希望する市民に「寿バスカード」を交付し、バス乗車料金の一部を助成する事業です。

2 助成のしくみ

寿バスカードの交付を受けるためには、2,000円の負担金が必要となりますが、交付を受けた後は、市内での乗降1回につき100円の利用者負担で路線バスに乗車することができます。バス事業者が負担する9.1%分と利用者負担を除く正規運賃との差額を、市がバス事業者に支払います。

身体障害者手帳または療育手帳の交付を受けている方の負担額は、交付を受ける際に1,000円、1回の乗車で50円となります。

3 利用実績

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対象者（人）	86,350	89,537	91,757	93,032	94,332
利用者（人）	28,195	28,877	27,149	25,682	25,702
市の負担額 （千円）	225,321	233,628	188,437	216,085	236,174

4 今後の見直しの検討について

（1）検討内容

対象年齢を70歳以上としているところ、5歳引き上げて75歳以上に見直すことを検討しているところです。

（2）年齢引き上げの理由

高齢者バス料金助成事業は、昭和63年度から実施しているところですが、当時とは高齢者の状況に変化が生じています。

例えば、当時の平均寿命は男性で75歳、女性で81歳でしたが、今日では男性で81歳、女性で87歳と6歳程度延びています。また、身体機能等についても、国の見解として10～20年前と比較したとき、加齢に伴う身体・心理機能の変化の出現が5～10年遅延しており、「若返り」現象が見られ、特に65～74歳の「前期高齢者」では心身の健康が保たれており、活発な社会活動が可能な人が大多数を占めていることが示されています。

更に、65歳までの雇用確保が義務化されたり、75歳以上を対象として独立した後期高齢者医療制度が創設されるといった社会情勢の変化もあります。

このような中で、時代に即した事業へと見直しを行いながら継続していく必要があると考えるものです。

- ・平均寿命が男女ともに6歳程度延びている
- ・身体・心理機能の変化（衰え）の出現が5～10年遅延している
- ・65歳までの雇用の義務化
- ・75歳以上を対象として独立した後期高齢者医療制度が創設されている

(3) 今後の予定

バス事業者にも意見を聞きながら、いつから、どのように引き上げていくか具体的内容を構築します。

5 市民の意識調査

高齢化の進展により寿バスカードの利用対象者が年々増加し、旭川市が負担する費用も膨らむ一方となっていることに加え、財政状況が厳しくなっており、このままでは費用を賄いきれなくなることが予想されことから、市民の意見を把握するためアンケート調査を行いました。

(1) 対象者、調査人数及び回答率

対象	調査人数	回答数	回答率
寿バスカードの利用者	3,000人	1,876人	62.5%
市民（18歳以上、利用者除く）	3,000人	1,053人	35.1%

※以下、対象者が「寿バスカードの利用者」の場合は「利用者」、「市民（18歳以上、利用者除く）」の場合は「市民」と表記します。

(2) 調査期間

いずれの対象者にも令和5年6月27日発送し、到着後から7月21日までの約3週間としました。

(3) 事業の継続に対する市民の意見

「市の負担が増えるのであれば事業をやめてもよい」という意見は、利用者で5.1%、市民で10.9%という結果で、何らかの方策により「事業を継続してほしい」という意見が利用者で91.2%、市民で83.2%と大部分を占めました。どのようにして「事業を継続してほしい」かの内訳は次のようになり、利用者、市民とも同様の傾向を示しました。

内容	利用者	市民
利用者の負担が増えるのはやむを得ない	31.9%	25.5%
利用できる条件の変更	42.4%	43.5%
市の負担を増やす	16.9%	14.2%
計	91.2%	83.2%

(4) 許容度の高い制度の変更

制度変更の内容について、7項目を挙げ、許容できるかできないかを5段階で評価してもらったところ、利用者で最も許容度が高かったのは「年齢の引上げ」、続いて「交付時負担金の引上げ」となり、最も許容度が低かったのは「利用できる日（曜日）の限定」という結果で、年齢の引上げについては「許容できない」「どちらかというところ許容できない」という答えが特に少ない状況でもありました。一方、市民の許容度はどの項目も比較的高い傾向にあり、最も高いのは「所得による利用の制限」、続いて「年齢の引上げ」となり、最も低かったのは「利用できる日（曜日）の限定」でした。

利用者、市民とも、概ね同じ傾向であり、年齢の引上げは他の制度変更と比べれば理解を得やすいものと思われます。

ア 利用者の許容度

内容	「許容できる」、 「どちらかというところ 許容できる」の計	「許容できない」、 「どちらかというところ 許容できない」の計
年齢の引上げ	66.1%	13.2%
交付時負担金の引上げ	44.1%	34.2%
所得による利用の制限	42.1%	36.1%
利用できる金額に上限を設ける	39.4%	37.3%
乗車時の料金の引上げ	32.2%	47.1%
利用できる時間帯の制限	18.6%	63.3%
利用できる日（曜日）の限定	16.8%	65.6%

イ 市民の許容度

内容	「許容できる」、 「どちらかというところ 許容できる」の計	「許容できない」、 「どちらかというところ 許容できない」の計
所得による利用の制限	69.5%	19.4%
年齢の引上げ	68.5%	22.1%
利用できる金額に上限を設ける	60.8%	19.8%
交付時負担金の引上げ	57.7%	23.1%
乗車時の料金の引上げ	47.6%	35.2%
利用できる時間帯の制限	43.5%	40.9%
利用できる日（曜日）の限定	36.4%	45.3%

高齢者バス料金助成制度（寿バスカード）に関する アンケート調査結果について

第1部 令和4年度寿バスカード購入者に対する アンケート結果について

1 アンケート概要

令和4年度に寿バスカードを購入した市民3,000人を無作為に抽出し、令和5年6月27日に調査票を送付し、7月21日（金）まで（当日消印有効）を期限としてアンケート調査を行った。なお、調査票の送付は郵送で行い、回答の返送も返信用封筒を同封して郵送により行った。

結果、1,876件の回答を得、回収率は62.5%となった。

2 各質問への回答状況

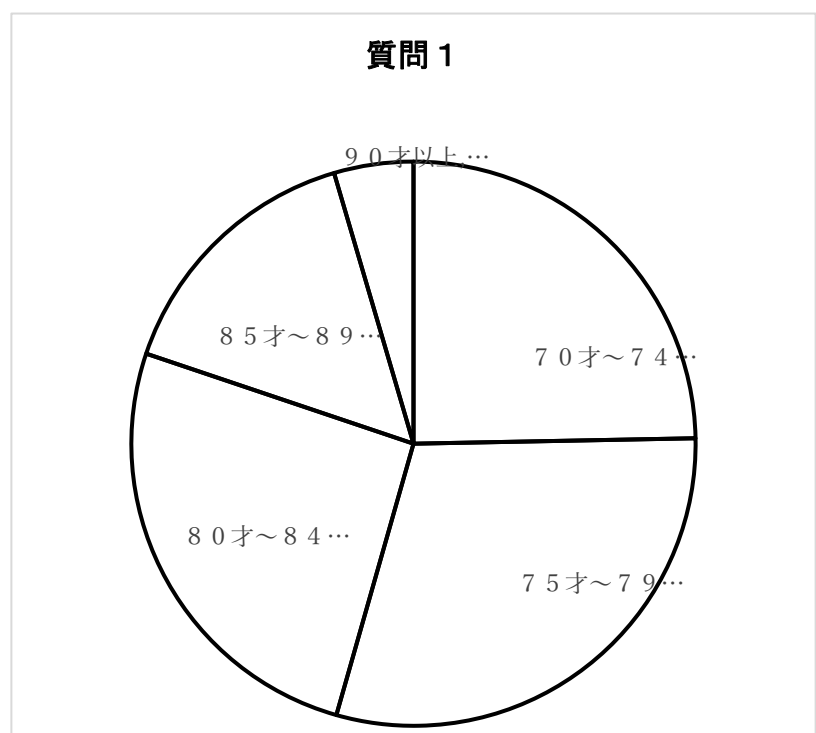
※ 端数処理により、各選択肢の回答割合を合計した場合100.0%にならない場合があります。

質問1 あなたの年齢は。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 70才～74才 | 2 75才～79才 | 3 80才～84才 |
| 4 85才～89才 | 5 90才以上 | |

この質問は、回答者の年代を聞くもので、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は99.7%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	462	24.7%
2	556	29.7%
3	482	25.8%
4	286	15.3%
5	85	4.5%
計	1,871	100.0%



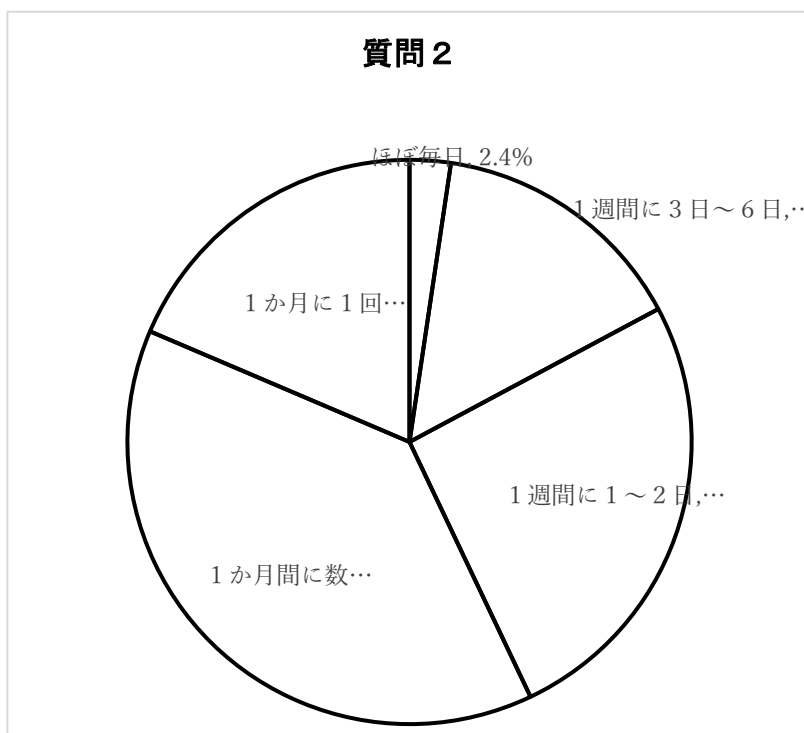
最も多かったのは75～79才の29.7%、次いで80～84才の25.8%、70～74才の24.7%であった。90才以上の回答も4.5%あった。

質問2 バスの利用頻度をお答えください。

- 1 ほぼ毎日 2 1週間に3日～6日 3 1週間に1～2日
4 1か月間に数回 5 1か月に1回程度

この質問は、バスの利用頻度を聞くもので、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は95.2%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	42	2.4%
2	265	14.8%
3	460	25.8%
4	687	38.5%
5	332	18.6%
計	1,786	100.0%



最も多かったのが1か月に数回で38.5%、次いで1週間に1～2回の25.8%であった。ほぼ毎日という回答も2.4%あった。

質問3 質問2で「2 1週間に3日～6日」又は「3 1週間に1～2日」と回答した方への質問です。バスを利用するのは主に何曜日ですか。

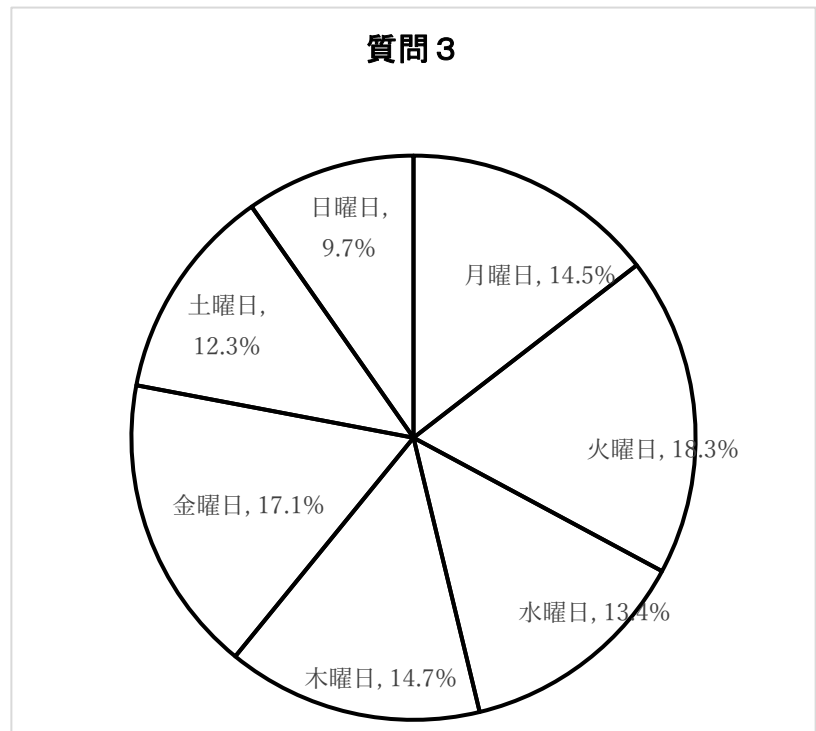
- 1 月曜日 (当てはまる曜日の番号には、すべて○印を記入してください。)
2 火曜日
3 水曜日
4 木曜日
5 金曜日
6 土曜日
7 日曜日

この質問は、前問で1週間に3日～6日又は1週間に1日～2日と回答した方に対する

ものである。毎週バスを利用する方に対して、利用する曜日が固定されているかどうか、何曜日の利用が多いのかを確認することを目的としている。

回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものをすべて選択するものであり、複数回答のため回答数（2,375件）は回答人数よりも多くなっている。回答人数は849人で、全回答数に対するこの質問の回答人数の割合は45.3%、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	345	14.5%
2	435	18.3%
3	318	13.4%
4	348	14.7%
5	406	17.1%
6	292	12.3%
7	231	9.7%
計	2,375	100.0%



最も多かったのが火曜日で18.3%、次いで金曜日の17.1%であった。大きくくくると、火・金が17~18%、月・木は15%、水・土は12~13%、日は比較的少なく10%という結果であった。

質問4 バスを利用するときの目的は何ですか。

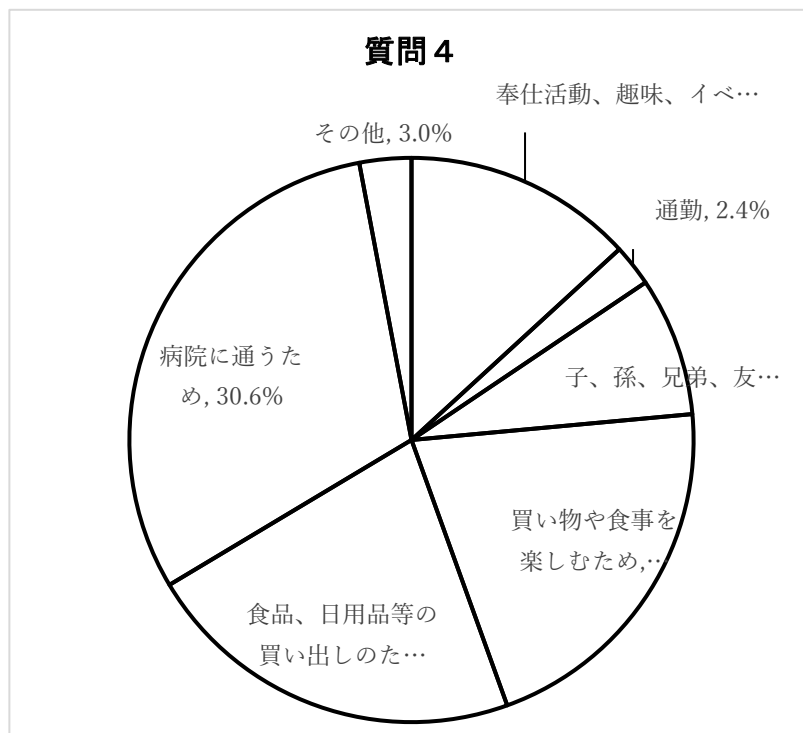
（利用目的に近い回答の番号には、すべて○印を記入してください。「7 その他」を選んだ場合は、カッコ内にその内容を簡単にご記入ください。）

- 1 奉仕活動、趣味・レクリエーション活動、イベント等への参加のため
- 2 通勤（仕事）のため
- 3 子ども、孫、兄弟、友人等と会うため
- 4 買い物や食事を楽しむため
- 5 食品、日用品等の生活に必要なものを買いに行くため
- 6 病院に通うため
- 7 その他（ ）

この質問は、バスの利用目的を確認するもので、提示した選択肢の中から当てはまるものをすべて選択するものであった。複数回答のため回答数（3,603件）は回答人数よりも多くなっている。回答人数は1,725人で、全回答数に対するこの質問の回答人数

の割合は92.0%、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	475	13.2%
2	86	2.4%
3	287	8.0%
4	755	21.0%
5	790	21.9%
6	1,103	30.6%
7	107	3.0%
計	3,603	100.0%



最も多かったのが病院に通うためで30.6%、次いで食品、日用品等の買い出しのためが21.9%と、これらで過半数を占め、生活する上で欠かせない交通手段として利用しているようであった。一方、奉仕活動・趣味・イベント等への参加、子・孫・兄弟・友人等と会う、買い物や食事を楽しむなど、生活を楽しむための用途には合計で42.2%と、やや少ない結果であった。

その他とする回答は3.0%で、内容はさまざまであるが、銭湯や美容室へ行くというものが比較的多くあった。

【その他として記載された内容】 ※同内容のものはまとめています

- ・温泉（風呂、銭湯）に行く時。
- ・友人の見舞い
- ・親の介護
- ・障害者で活動のため。
- ・お寺参拝、教会礼拝
- ・車を使用。
- ・バス利用後、帰りウォーキング（有酸素運動）。
- ・ほとんど乗らないです。
- ・運動
- ・車で町にいった時、駐車料金がかかる（駐車時間が長い）時。
- ・市民委員会、研修会、旭老連、行事、役員会等の会合
- ・体操指導、預貯金入出金、各種支払い等
- ・親、孫等の面会
- ・駅まで。

- ・ 冬にしか乗らないです。
- ・ 美容室
- ・ 趣味（カラオケ他）
- ・ 飲み会
- ・ イベントを見るため、映画を見るため、墓地清掃のため。
- ・ 別になし
- ・ 市中心、車、駐車不便な場所へ行く時→バス
- ・ 市役所の用事だけに使用しています。その他現在の所いっさい使用していません。
- ・ 見物
- ・ たまたま時間がちょうど良かったとき。
- ・ 畑仕事
- ・ 健康維持と在住２度の転勤でその後退職し、その後旭川に居住。旭川市内・郊外も様
変りで自分で歩き見るも何か発見あるかも？
- ・ 画廊めぐり、喫茶店めぐり
- ・ 生活上すべて

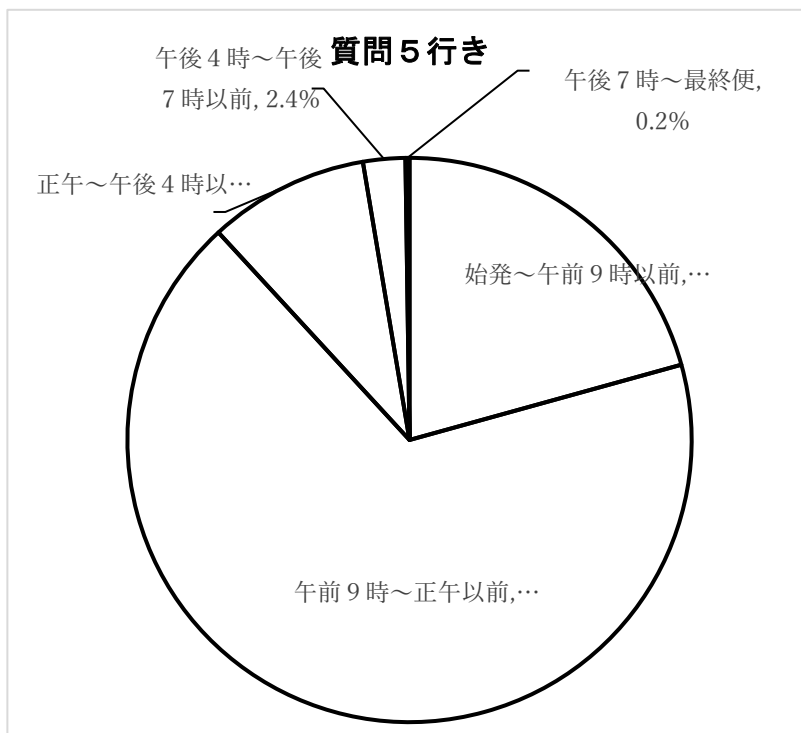
質問５ バスを利用することが多い時間帯について、「行き」と「帰り」それぞれお答え
ください。（乗車する時刻でお考え下さい。）

- １ 始発から午前９時までの間（午前９時ちょうどもを含みます）
- ２ 午前９時から正午までの間（正午ちょうどもを含みます）
- ３ 正午から午後４時までの間（午後４時ちょうどもを含みます）
- ４ 午後４時から午後７時までの間（午後７時ちょうどもを含みます）
- ５ 午後７時から最終便まで

この質問は、どの時間帯でバスの利用が多いか確認することを目的とし、提示した選択肢の中から当てはまるものを１つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は、行きについては９２．７％、帰りについては９０．３％で、回答の内訳は次のようであった。

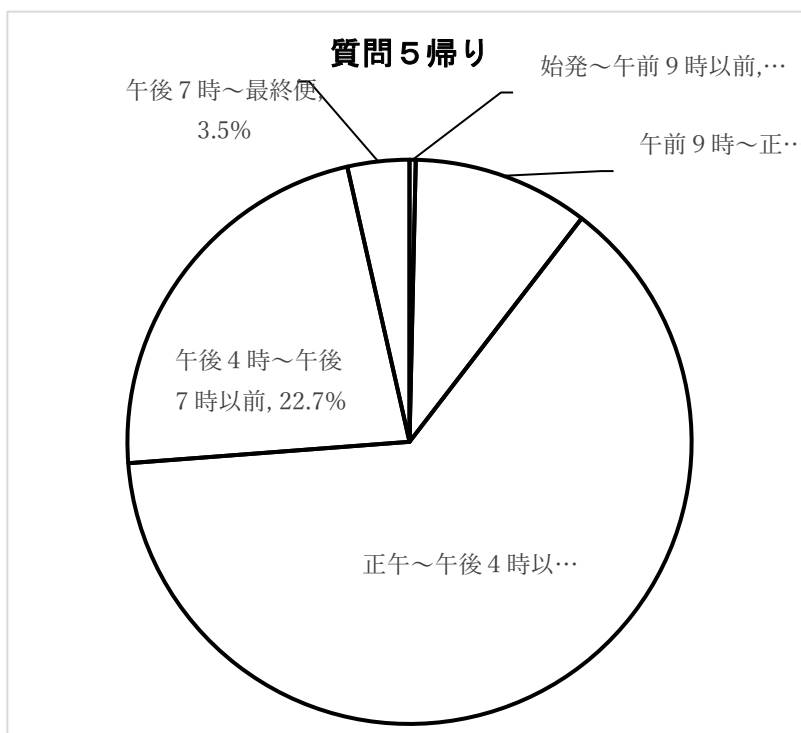
【行き】

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	360	20.7%
2	1,173	67.5%
3	160	9.2%
4	42	2.4%
5	4	0.2%
計	1,739	100.0%



【帰り】

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	6	0.4%
2	171	10.1%
3	1,073	63.3%
4	384	22.7%
5	60	3.5%
計	1,694	100.0%



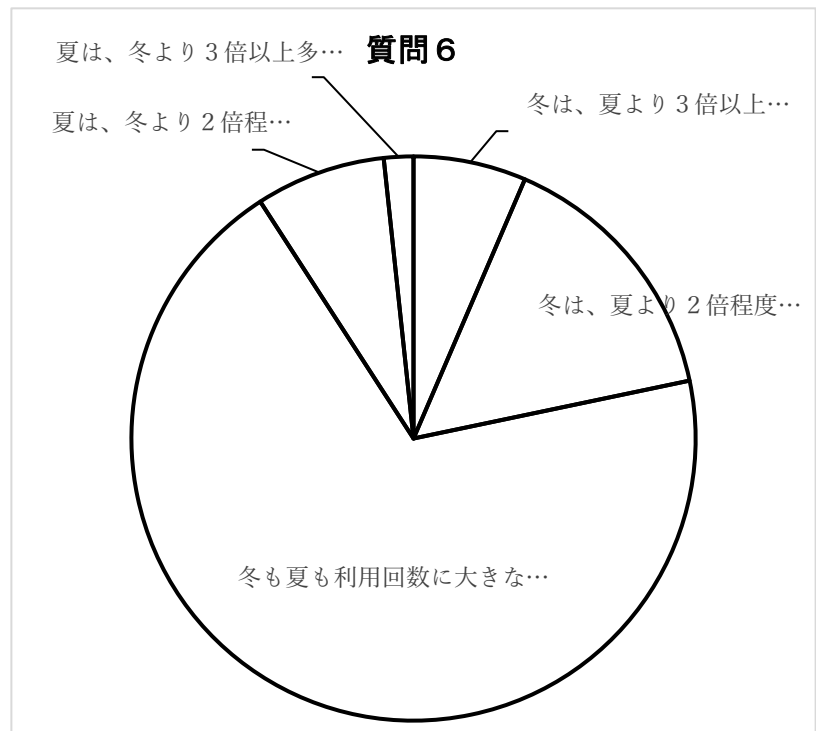
最も多かった回答は、行きについては午前9時～正午の67.5%、帰りについては正午～午後4時の63.3%と、日中の時間帯の利用が6割程度を占めていた。また、行きでは始発～午前9時が20.7%、帰りでは午後4時～午後7時が22.7%が次いで多くなっており、通勤・通学でバスの利用者が多くなるとされる時間帯に利用する方が概ね2割程度いるという結果であった。

質問6 冬（雪がある時期）と夏（雪のない時期）で、バスの利用回数に大きな違いがありますか。感覚的にどのくらいの違いがあるかお答えください。

- 1 冬は、夏より3倍以上多く利用する
- 2 冬は、夏より2倍程度多く利用する
- 3 冬も夏も利用回数に大きな違いはない
- 4 夏は、冬より2倍程度多く利用する
- 5 夏は、冬より3倍以上多く利用する

この質問は、バスを利用する時期に偏りがあるか確認することを目的とし、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は91.6%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	111	6.5%
2	262	15.3%
3	1,188	69.2%
4	128	7.5%
5	29	1.7%
計	1,718	100.0%



最も多かった回答は、冬も夏も利用回数に大きな違いはないの69.2%で、大部分の方は季節に関係なくバスを利用しているようであった。しかしながら、季節により利用頻度が変わる方も30%程度に上っており、夏・冬で比較すると、冬に利用頻度が多くなる方は夏に多くなる方の2倍程度に上っていた。

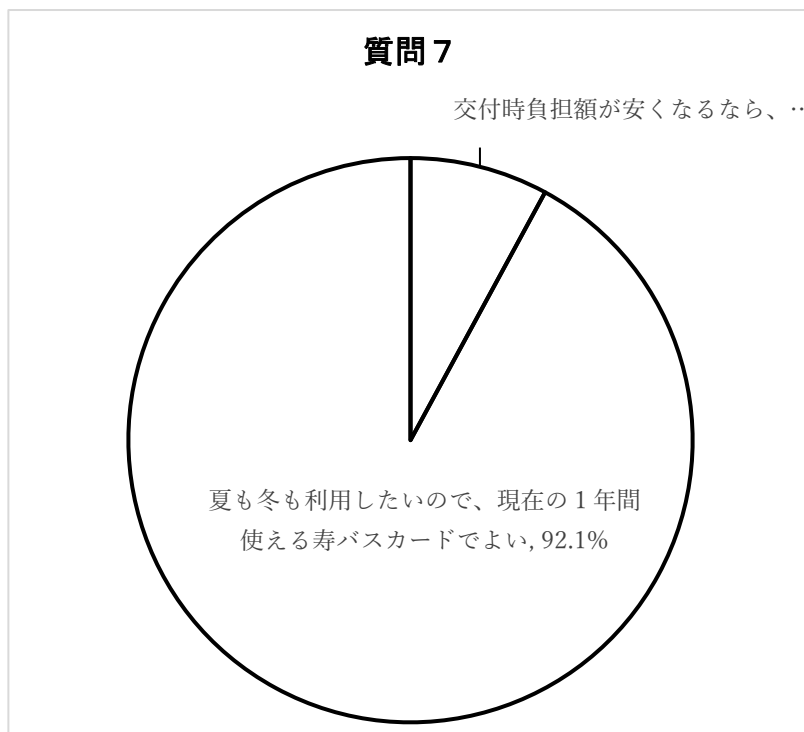
質問7 半年間だけ使える寿バスカードがあったとしたら、利用したいと思いますか。

- 1 現在の1年間使える寿バスカードよりも交付時負担額（注1）が2,000円（身体障害者手帳等の交付を受けている方は1,000円）よりも安くなるなら、冬（雪がある時期）だけ又は夏（雪がない時期）だけ利用したいと思う
- 2 夏も冬も利用したいので、現在の1年間使える寿バスカードでよいと思う

（注1：交付時負担額とは、寿バスカードの交付を申請する際に支払う負担金のことをいいます）

この質問は、有効期間を半年に短縮し、その分、1年間を有効期間とする寿バスカードよりも安い金額で購入できるようにした場合に需要があるかどうか確認することを目的としている。提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであり、全回答数に対するこの質問の回答率は94.9%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	141	7.9%
2	1,640	92.1%
計	1,781	100.0%



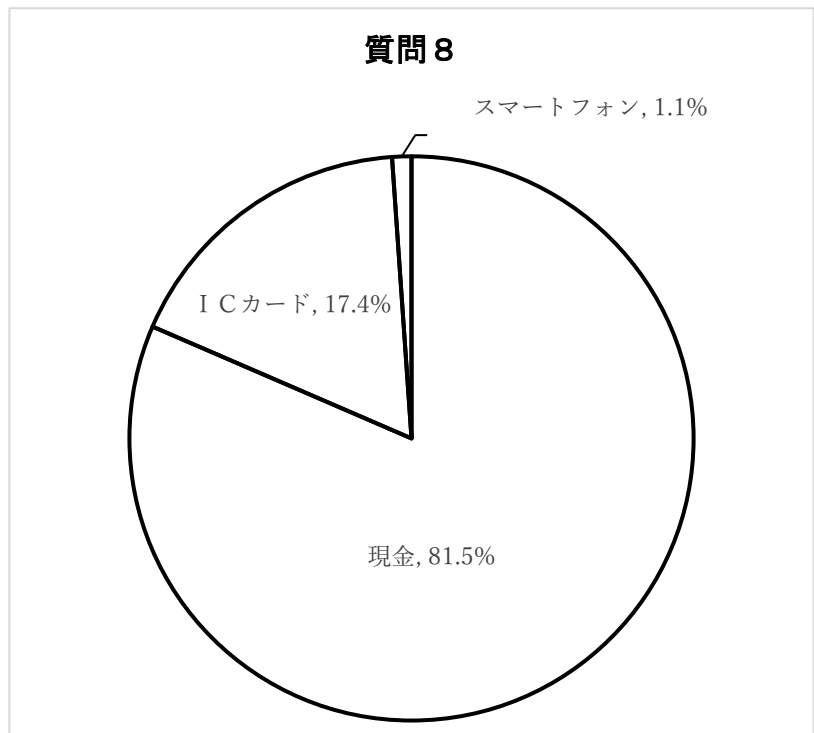
冬だけ又は夏だけ寿バスカードを利用したいという回答は7.9%であった。前問で、バスを利用する時期に偏りのある方は約30%であったが、寿バスカードが半年だけ使えば良いという回答はその3分の1にも満たず、この質問の結果から、有効期間を半年とすることに対する需要は低いようであった。

質問8 バスに乗車した時の支払は、どのような方法が便利だと思いますか。

- 1 乗務員に寿バスカードを見せ、現金で運賃箱に支払う（現在の支払い方法）
- 2 支払い機能が付いた専用のカード（AsacaやDoカードのようなICカード）により支払う
- 3 スマートフォンにより2次元コードを読み取って支払う

この質問は、バス乗車時の料金の支払いについて、どのような方法が好まれるかを確認するものである。提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであり、全回答数に対するこの質問の回答率は96.7%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	1,479	81.5%
2	316	17.4%
3	20	1.1%
計	1,815	100.0%



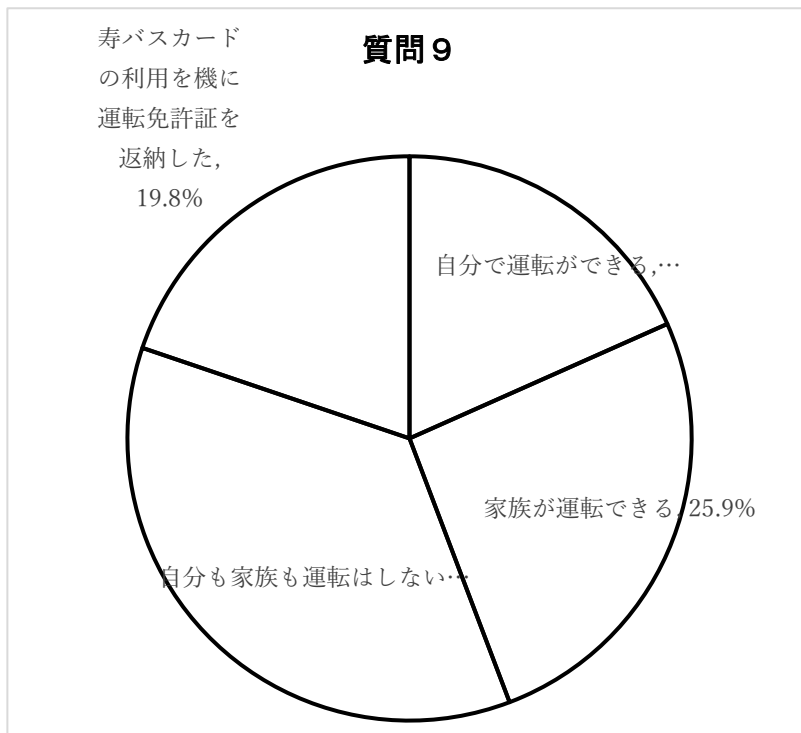
現金という回答が 81.5% で大部分を占めていた。次いで、I C カードが 17.4% で、スマートフォンによる 2 次元コードは極端に低い 1.1% であった。

質問 9 自動車の運転はしますか（可能ですか）。

- 1 自分で運転免許証も自動車も持っていて、運転ができる
- 2 自分は運転しない（できない）が、家族が自動車を持っていて運転できる
- 3 自分も家族も運転はしない（できない）
- 4 寿バスカードの利用を機に運転免許証を返納した

この質問は、寿バスカードを利用する方の自動車の利用可否について確認するものである。提示した選択肢の中から当てはまるものを 1 つ選択するものであり、全回答数に対するこの質問の回答率は 95.6% で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	329	18.3%
2	464	25.9%
3	645	36.0%
4	355	19.8%
計	1,793	100.0%



最も多かった回答は、自分も家族も運転はしない（できない）の36.0%で、免許証を返納した方の19.8%を加えると過半数の方が自家用車の利用が難しいようであった。一方、自分の運転や家族の運転する自動車の利用か、何らかの形で自家用車の利用が可能である方は44.2%となっていた。マイカーを所有し、自ら運転できる方でも、2割弱の方は寿バスカードを所有している状況にあった。

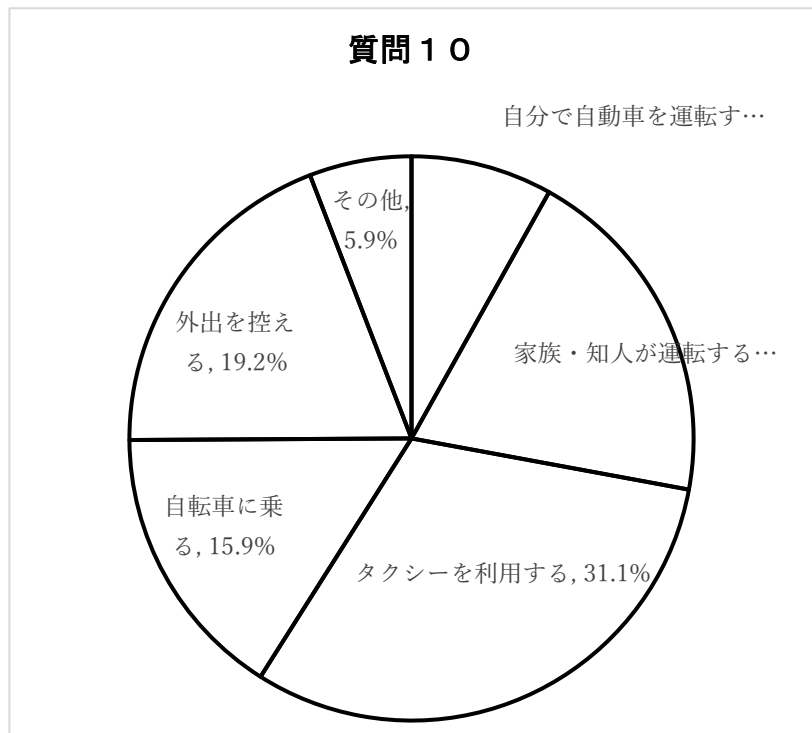
質問 10 あなたが外出する場合に、バスに乗らないとしたら、どのようにしますか。

（当てはまる回答の番号には、すべて○印を記入してください。「6 その他」を選んだ場合は、カッコ内にその内容を簡単にご記入ください。）

- 1 自分で自動車を運転する
- 2 家族・知人が運転する自動車に同乗する
- 3 タクシーを利用する
- 4 自転車に乗る
- 5 外出を控える
- 6 その他（ ）

この質問は、外出する場合のバス以外の交通手段を確認するもので、提示した選択肢の中から当てはまるものをすべて選択するものである。複数回答のため回答数（3,021件）は回答人数よりも多くなっている。回答人数は1,731人で、全回答数に対するこの質問の回答人数の割合は92.3%、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	245	8.1%
2	598	19.8%
3	939	31.1%
4	481	15.9%
5	581	19.2%
6	177	5.9%
計	3,021	100.0%



最も多かった回答は、タクシーを利用するの 31.1% であった。外出を控えるという回答が 19.2% あり、寿バスカードが高齢者の外出に一定の貢献をしていることがうかがえた。また、自分で自動車を運転するという回答は 8.1% で、前問で運転免許証も自動車も持っていて運転できるという回答が 18.3% であったことを考えると、実際にマイカーを運転する方は半分にも満たない少なさとなっている。家族・知人の自動車に同乗する方は 19.8% で、タクシーを含め何らかの自動車に乗るという方が 59% と 6 割近くに上った。その他の回答の中では、徒歩が多数であったが、他に J R、スクーターという回答が散見された。

【その他として記載された内容】 ※同内容のものはまとめています

- ・ タクシー
- ・ 歩く
- ・ 電車（汽車）
- ・ バスがなければ外出できません。100% バスです。
- ・ 高齢者なので車運転は最小限で出来るだけバスか自転車を利用しています。
- ・ スクーターに乗る。
- ・ 寿バスカードがなくなるとしたら、病院にお買い物にもいけなくなります。年なので自転車に乗れなくなりました。
- ・ 家族・知人にたのむ。
- ・ 行きは車、帰りは代行車。
- ・ なるべく近くで用を済ませる方法にする。
- ・ 夏は自転車に乗っています。
- ・ 免許証返上を考えているので困る。
- ・ 普段は外出を控えますが、通院の時は頼る人が居ないので、バスで行くしかありません。

ん。

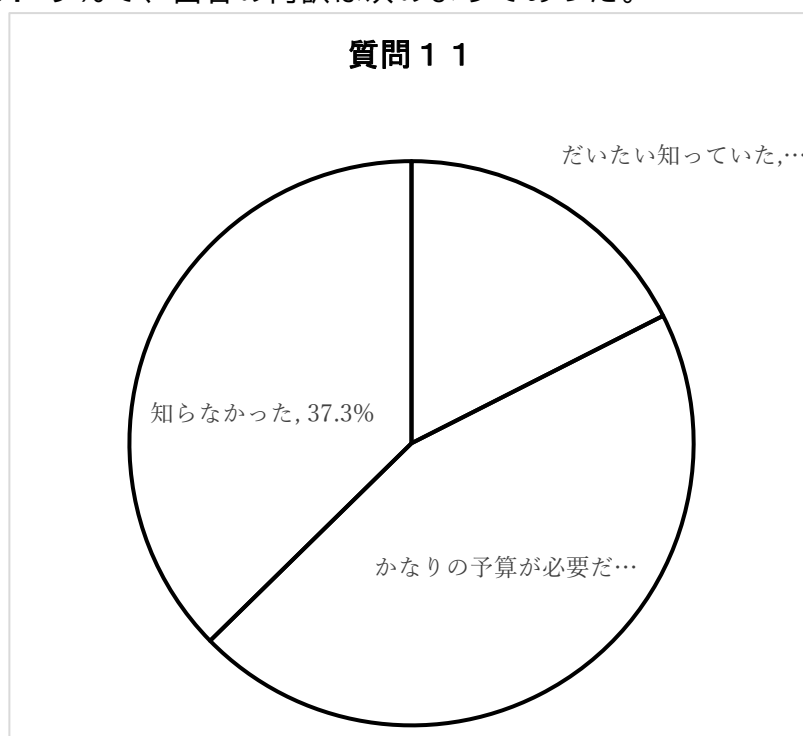
- ・仕事をやめる。
- ・市中心に住んでるため買物等は不自由しないが、他の用とか、最近の変り行く旭川市内をこの眼で見て私なりの変化する昭和から令和の時代、旭川市はどうだったか？また、私なりの道内の都市４市で勤務し、生まれ故郷美瑛に連なる大雪連山がすばらしくカナダにも優り、旭川市を深くつつみ込む優しさがうれしい。

質問１１ この事業を行うため、市の予算は令和５年度で２億円程度を必要としていることはご存じでしたか。

- １ だいたい知っていた
- ２ かなりの予算が必要だとは思っていた
- ３ 知らなかった

この質問は、寿バスカード事業に使用する市の予算を知っていたかどうかを聞くもので、回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを１つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は９３．９％で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
１	３０９	１７．５％
２	７９５	４５．１％
３	６５８	３７．３％
計	１,７６２	１００．０％



最も多かった回答は、かなりの予算が必要だとは思っていたの４５．１％であった。

質問１２ 今後、旭川市の高齢化は更に進み、寿バスカード事業を実施するために必要となる予算が増加し、市の負担が増えていくことが予想されます。これを踏まえて、今後事業を継続するうえで利用者の負担についてのお考えとその理由をお聞かせください。

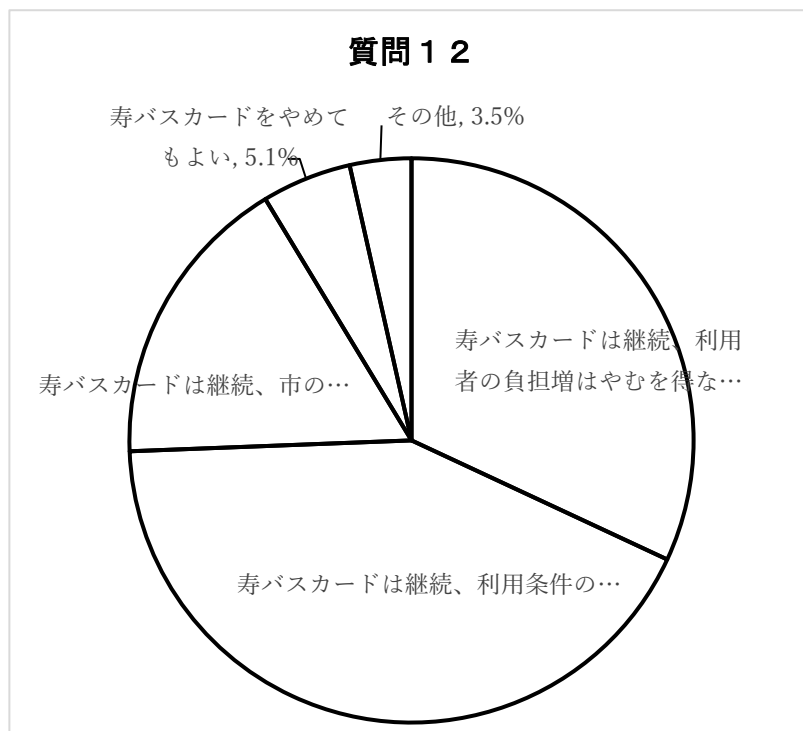
- １ 事業を継続するために必要であれば、利用者の負担が増えるのはやむを得ない
- ２ 利用者の負担ができるだけ増えないように、利用できる条件の変更（例えば、年

（年齢の引上げ、利用回数の制限）などで事業を継続してほしい

- 3 市の負担を増やすとしても、優先して取組む事業だ
- 4 市の負担が増えるのであれば事業をやめてもよい
- 5 その他

この質問は、市の負担が増えていくと予想される中で、事業の継続に対する考え方を聞くものである。回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択し、その理由を記載するものである。全回答数に対するこの質問の回答率は95.3%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	571	31.9%
2	759	42.4%
3	303	16.9%
4	92	5.1%
5	63	3.5%
計	1,788	100.0%



寿バスカードをやめてよいという意見は5.1%にとどまり、寿バスカードの継続を望む意見は合計で91.2%であった。継続を望む意見の中では、利用条件の変更はやむを得ないとするものが最も多く42.4%、次いで利用者の負担増はやむを得ないとするものが31.9%、市の負担が増えてもよいとするものが最も少なく16.9%であった。

その他の意見は、バスをやめてタクシーにする、75歳以上は無料にする、寿バスカード以外の予算の見直しをするなど様々な回答があった。

【その他として記載された内容】

- ・学生、会社員用のバスは大型で、我々高齢者用は小型のバスにして、時間帯も細かく順回路も少し小廻りして頂けると（枝道）うれしく思います。
- ・バスはやめてタクシーにしてはどうか？
- ・75才以上の高齢者は無料化にしてほしい。
- ・市の負担増を少しでもやわらげる処置として、期間限定の完全無料化をやめるべき。ただでさえ安い料金なのだから、1年を通して今のサービスを！
- ・コロナの無料の時は生活の面で助かりました。物価高で年金生活なので今後とも宜し

くお願い致します。

- ・今の形は体・心両方の健康によろしいかと思って見えています。
- ・介護認定を持っている人だけは今のままでいい。
- ・寿バスカードの1回の金額を200円にしても良いのでは。その時に寿バスカードでお金をはらえるようにすると良いと思う。チャージができるようにして欲しい。
- ・「3」の負担で取組事業です。
- ・年令を引き上げも、やむを得ない。
- ・昨年度は何ヶ月の間、無料でしたが、無料にせず利用者の負担を増やさず事業を継続して欲しい。
- ・冬期間だけでも無料にならないだろうか。
- ・年金生活でギリギリでハイヤーなどは頼めなく、バスだけでも今の現状でやってほしいです。年寄りがこれからも多くて国、市の方も大変だと思いますが、よろしくお願い致します。
- ・年令の引き上げ、所得税制限
- ・年齢、又は利用者の負担が増えるのはやむを得ない事もありますが、どちらも大幅にしないで欲しいです。
- ・低所得者、障害者等限定にしたらどうでしょう。
- ・今の段階では100%の必要性は感じていません。なるべく健康のため歩ける所へは歩きます。でも正直疲れているときバス券は有り難いです。最悪の場合バス代は自腹でも仕方のないことです。
- ・せめて夏冬通て行動をしたいのでバスカードの額を下げてほしい。
- ・若いときちゃんと税金をおさめて働いてきたので今があると思っています。
- ・所得制限をする。
- ・老人の一人生活なので現在のままで良い。
- ・高齢者の実情（居住宅や身体の衰えなど）年々弱者になっていくし、年金者には税の負担が重いから継続を望む。
- ・使わないようにする（それなら）。
- ・月に乗る回数を制限すれば良い。一日に乗る利用を4回迄とするとかの方法。
- ・バス券に対し、札幌市は敬老優待乗車証発行で1000円の自己負担で1万円乗車出来るし、帯広は無料と知りました。せめて札幌市の制度を取り入れてはどうかと考えます。
- ・補助金の削減が先では。
- ・高い税金は年金から引かれます。払ってない人ばかり優遇されている今、せめて年令の平等はやめないでほしい。バスでの外出は確実に減る。のみ会も街に行かない。
- ・年令の制限、利用回数の制限といっても、年令を重ねて行った場合等、利用する回数には目にみえていと思うので、利用出来る方々は余り病院代も掛からない程度の健康名人達のように思えるので、金額を2000円から2500円にするか、使用目的を制限する方法を考えてもいいのかなと思います。
- ・継続するために1年間2千円にしてたのを3千円にして、今までのように1回100円のままにして頂きたいです。お願いします。

- ・札幌とか周辺の都市を参考にする。私達は主人が歩けないので、ほとんどタクシー。私も 2000 円の元を取れない程度の利用。
- ・申請や支払いが簡便になるよう電子マネーやバス会社のカードを利用できるといい。多少の手数料が生じてもしかたない。
- ・人生 100 歳時代、年齢 80 歳以上に引き上げる事。
- ・専用の IC カードを作り、乗車区間を半額にしてしよう出来るのが望ましいと思います。
- ・200 円かかる人も、400 円の人も 100 円でなく、掛かる料金の半額を支払って利用すると良いかと、最低 100 円で上限は半額にしたら良いかと。
- ・所得によって寿バスカードの利用を制限すること
- ・2 千円～3 千円の負担は仕方がない。2 千円の場合 1 0 0 円の（バスの料金箱）負担金を増額しても良いと思います。
- ・最初に 2, 0 0 0 の所を 3, 0 0 0 払っても今の寿カード 1 0 0 円で乗る事が良い。
- ・返答に困ります。
- ・夏期、冬期と分けて 6 ヶ月単位で使用出来たら良いと思います。
- ・寿バスカード以外の予算の見直しも行うこと。
- ・現在 1 0 0 円を 2 0 0 円に値上げしてでも続けていただければ助かります。
- ・利用することが少なくなって来ていますので、体調の事もあるので乗る事があってもその時は通常の料金で乗車します。

【各選択肢を選んだ理由】

- 「選択肢 1 事業を継続するために必要であれば、利用者の負担が増えるのはやむを得ない」を選んだ理由
 - ・負担金を 2 0 0 0 円から 5 0 0 0 円にしても良いと思います。
 - ・その日に変わるから。
 - ・寿バスカードのおかげで外出しやすく感謝しています。体や特に足の健康のために出掛ける事は大切に感じます。いろいろな条件があると年をとると判断したり、とまどいが出てくるので現状維持もしくは簡単わかりやすい方法でお願いいたします。
 - ・事業継続希望する。私は今年カード受けませんでした。
 - ・事業を継続して頂く為には 1000 円以内なら負担をしても良いと思います。
 - ・いつも半額くらいで乗れるのですから、少々負担が増えても良いです。
 - ・限度がありますが、負担が増えるのはやむを得ないかと。バス乗り継ぎで通院。寿バスカードがなくなると経済的に不安です。
 - ・事業を継続して頂きたいから。
 - ・一人暮らしなので、バスがなければ不便です。
 - ・高齢になりタクシーを利用する多し。
 - ・老人が増えるのでやむをえず。
 - ・利用者の負担をなるべく少なくして欲しい。
 - ・年金で生活。バスでしか行けない病院。バス乗り継ぎで夫の面会に施設はも行かなくてはならず、絶対必要な寿バスカードを廃止しないで下さい。

- ・街、病院等迄遠いので多少負担額増えても継続して頂ければありがたいです。
- ・利用者が相応の負担をするのは当たり前だと思う。
- ・気軽に利用出来るバスは市民の足だと思います。負担が今の倍になっても利用します。
- ・私の友人には車の免許証が無く、いつもバスを利用しています。私も数年後にはそうなると思います。寿バスカードの継続をお願いします。
- ・どうしても必要なので。
- ・寿カードがあることで外出がしやすくとても有難く思っています。負担が少しだった我慢します。この事業は是非続けて下さい。
- ・市の財政を考えると個人負担が増えても仕方ないのではと思う。
- ・①高齢者がふえるのに年齢を引上げわ反対②負担が増えたら利用を自分なりに考えてでかける回数をへらすしかないと考える③年齢と共にだんだん出かけられなくなると思う。
- ・高齢になり免許証を返納したためバスの便数が減り、街へ行っても帰りのバスが1時間もない事が多く困っています。
- ・寿バスカード事業に利用できることに感謝しております。これからも取組んでほしいです。
- ・利用する人は負担が増えるのはやむを得ない。利用少ない人は考えると思うので。
- ・利用度が多くなると負担は大と思うが、自己負担やむなし。市の負担は少なくした方が良い。
- ・どうしても病院へ行かなければならないので利用者の負担が増えるのはしかたがないです。
- ・歩いては何も出来ない。
- ・病が有るから外へ出る。頭からはなれない。体も心も強くいたい。バスが私を助けてくれている。

●「選択肢2 利用者の負担ができるだけ増えないように、利用できる条件の変更（例えば、年齢の引上げ、利用回数の制限）などで事業を継続してほしい」を選んだ理由

- ・質問13（7）大変助かっております。50円が100円になっても仕方ないと思っております。
- ・70代からですと今の人は若いので、自転車も乗ってますし75才からだとし人数も違ってくると思うのですが？
- ・年齢の引き上げ利用回数の制限
- ・年令の引き上げ等
- ・寿バスカードがあると便利だし、バスを使おうと思うから。
- ・多少の負担増は許容できるが、その額や負担増分の支払い方法が不明のため判断できない。2000円→2500円くらいならやむを得ない。
- ・これから団塊世代の人達が10年～20年位、益々人口増加（高齢者人口）すると思いますが、その後は減っていくと思います。利用年令の引き上げもやむを得ないのかな。

- ・年金が 2 か月で 10 万円ちょっとなので、バス代も少しでも（車ももっていないので）安い方が大変助かります。
- ・寿バスカードがなくなると外出を控えると思うが、給料が上がるのも困る。今でも 100 円硬貨用意していても回数乗るので、すぐなくなるのに、これ以上増やせない。
- ・年齢的にバスを使用せず、チャリが自分の足でいける体の間は。
- ・移動手段として、タクシーは気楽に利用出来ない。高額
- ・カード、チャージ、回数券
- ・利用出来る回数をきめたほうが良いと思う。たとえば（10 回とか）。
- ・毎日利用しているので回数の制限されると休まなくてはならない。
- ・病院に行くためバスがないとこまります。
- ・この事業は高齢者に外出の機会を促し、文化的健康的に多いに役立っている。加えて外出に依り、消費や購買を促進する働きもあると考える。
- ・自家用車を手放した時の移動手段として大切。高齢者の免許返納時に大切な事業。SDGS（環境にやさしい）として重要。
- ・高齢になったため、この寿バス乗車が有るので、運転免許を返納する気になりました。必要です。
- ・高齢者優先で利用年令の引き上げは如何か
- ・私にとっては、どうしても必要な事業であるからです。
- ・市の負担も大変だと思いますが、年金生活者である私は、ここ何年かの物価高に病院通いと大変です。食費もきりつめ、光熱費も高く燃料代もきりつめてストーブもなるべくつけないようにして生活しているので、寿バスカードの件もなるべく現状維持でお願いします。
- ・病院毎週予約時間きまっている買物週 2 回。
- ・近年、高齢化進展により（75 歳～79 歳）寿バスカード。
- ・利用者にもちっと値上げ、年齢ちっと引き上げ。
- ・年齢が高いのであまりバスは利用しないようになると思う。
- ・歩み分
- ・今の 70 歳はまだ若い。車も運転できる。80 歳以上でよいと思う。2000 円負担、100～200 円の支払い。
- ・当該事業の目的に鑑み、今後とも優先して取り組むべき事業であり、財政事情の制約が見込まれるのであれば、利用対象年齢を毎年一才ずつ年齢の引き上げを図り、最終的に 77 歳とする。
- ・保護を受けているため。
- ・寿バスカードを使える回数を決めてはどうでしょうか？1 か月に何回までとか、1 週間に何回までとか。
- ・後期高齢者の年金生活者にとって最近の諸物値の値上がりは大変です。是非ともご配慮をお願い申し上げます。
- ・高齢化が進む事は予想されるのははっきりしています。今は 70 才からですが、後期高齢と同じで良いと思います。
- ・現世は長寿時代となり、70 代はまだ現役です。寿カードは 80 才以上にしてください

- い。予算かなり減少するでしょう。私は 89 才、まだ元気もりもりです。
- ・利用回数が少ないので、高額になると出歩かなくなる。
 - ・75 才からでも良いと思う。
 - ・現在 70 歳以上の該当者の年令を引き上げ、予算の減少の方向へ持って行く。（具体的には 80 歳以上ぐらいにしてはどうか）
 - ・利用回数の制限
 - ・歩行がスムーズ出なく、自転車の遠乗りが不安。病院への手段として必要。
 - ・買い物、銀行へ行く、人に会うなどは社会生活に必要なだから。人として良く行きたいので。
 - ・その先も高齢者はふえます。元気で利用できるのであれば利用したいが、それもままなくなると。多くは病院の利用が多いかなと思います。
 - ・町まで出ないと買い物する所無いので、バスが必要です。
 - ・余計ですが、年齢は現行で十分、75 才位で交付を…で今の世は十分です。
 - ・負担額が増えると利用回数が減ると思う。
 - ・年齢の引き上げ
 - ・非課税の人たちに燃料費やお金を助成したりで税金を使いすぎです。非課税の人たちはそれほど困っていないです。少しやり過ぎだと思う。そういう所で使うから税がたりないと思う。
 - ・年老いてきたら足腰が弱くなってきてバスの乗り降りが大変で入口を低くするとか手すりつかんでも上がるのが大変でタクシーを利用する人が多い。まず自分でバスに乗れるようにしてほしいです。
 - ・年令とか年間低所得の人は必要かと思います。（最近仕事をやめたので少しでも安く行動したり、コロナがおさまり、出かける時が多くなって来ている。）遠くに行く時、100 円もない時期にはとくにたすかりました。
 - ・市の大変なことがわかっていながら、なぜ数年間もバス料金を無料にしたのですか。…私共は不思議でなりません。
 - ・私は 86 才です。一人暮らしで非課税者です。現在は、食事は自分で作るため駅前イオン、フィール等に行きだします。この 100 円で乗れるバスは、私は非常にありがたいと思っています。
 - ・3 年後に免許がなくなるのでバスの利用が多くなる。
 - ・通院ですので、平日は、使用できるようにお願いします。
 - ・予算が増加するというなら、70 才～74 才の人にがまんしてもらう。年齢と共にどこにも行かなくなる。寿バスカードがあるから外出する。
 - ・負担がふえるのはつらい。
 - ・年金少ないのでつづけてほしい。
 - ・運転免許証ない。郵便局で 2,000 円は支払っているの、年に私は数回乗るだけ。年齢は 70 才からでよい。
 - ・2,000 円の負担でバス券を購入することでバス会社の負担はどのように支払いになっているのか解らない。本人 100 円負担で市の方で 1 人いくらかかるのでしょうか。

- ・今までこの年に成るまで市税を支払い続け、視力低下など運転に支障来たし免許証返納するチャンスを伸ばす事に成ります。
- ・寿カードありがたく利用させて頂いています。利用者の中には兄弟・姉妹で一枚購入で共同で利用とか、そのようなことを聞きました。ほんの数名なのかもしれませんが…面倒でしょうが運転免許証のように顔写真をつけて発行ということもありかな？と思います。
- ・4の市の負担があまりにも増えるのであればやめるのも仕方ないと思いますが、私は体調が悪いので（買物帰りに雪道がすべって転び骨折したり重い荷物を運ぶ○手をいためたり）バスは1か月に1回位、イオンで野菜（近くで新鮮なヤサイを売っていないので）や日用品を配達してもらっていますが、元気な方はもっとバスを利用されていると思います。2の年齢の引上げや回数制限して続けて頂けたらと思います。
- ・利用の都度かなり助かっています。年齢の引き上げ等、回数の制限などを考えて継続して欲しいと思います。

●「選択肢3 市の負担を増やすとしても、優先して取組む事業だ」を選んだ理由

- ・高齢者にも愛を。100円バスがあるからみなさん外出するんですヨ。
- ・高齢者に対する旭川市としての優しい行政という押さえで、優先的に継続して取り組むべきと思う。
- ・特に冬期間は買い物などもスーパーなど近しくなく、車もないためバス代が100円ならとても助かります。今年の冬はすべって転んで足を骨折してしまいとても大変でした。これからも続けていただけるととても助かります。
- ・旭川は高齢者が多い街なので、その高齢者が元気に過ごすために、必要な事業だと思います。
- ・今まで毎月26日風呂の日で（70才以上）100円で入浴出来ましたが、4月から中止になったので寿バスカードだけは継続してほしいです。
- ・免許返納すると、手段はバスしかないのでありがたい制度に感謝しております。宜しくお願いします。
- ・高齢者が外出する事は単なる外出ではなく、大切な社会参加と健康維持につながっています
- ・普段は家族が仕事の休憩時間などで送り迎えしてくれますが、無理なときはタクシーかバスになる。今現在カード購入したがまだ一度も使ってない。
- ・年齢分だけ社会に貢献してきたので。年金生活なので。
- ・高齢者がバスを利用しなくなると、車を自分で運転する事になり、事故も多くなる。買い物も近場にしか行けないから町に出なくなり、遠くに行く時タクシーで行くとお金の負担がかかる。年金だけではまかないきれない。バス時間も少ないから1日疲れる。
- ・議会で優先して可決するようにしたい。
- ・バスカードがあれば気軽に外出できる。物価があがり、何もかも家計の負担になっている事もあります。

- ・老人のため少しはボケ防止になる。時間を気にしたり、歩くのにも良いと思います。
- ・市の交通機関の一つであるバス運行を絶やしてはならない。高齢者への活動の補助と友に重要な交通機関を絶やしてはならない。
- ・老人の負担ばかり増えて、バス料金くらいは認めて欲しいと思います。
- ・物価急大上昇の昨今、国民年金生活者の実態を御賢察し、公害に住む老人も何とか暮らせる施策をお願いします。
- ・有料でいいからコミュニティバス、循環バス等で本数増やし便利にして欲しい。2億予算半分は回収出来ると思います。
- ・旭川の行政サービスの中で1番はこの「寿バス」だと思います。利用者が多いのもその証拠です。また「100円」が良いのです。値上げして交通費のためひきこもり高齢者が増える事はしたくありません。他の町では聞いた事ないので旭川のイメージアップのためもっとアピールして利用してみては？新しい今津市長に期待しています。
- ・市の負担も理解できますが、冬など寒いバス停でバスを待ち、降りる時はすべて転倒するのではないかな？バスの行き先はまちがえていないか、不安はいっぱいあり、利用できる年齢も限られます。高齢者が1人で外出できる期間は短いのです。
- ・高齢者の外出機会をふやすため
- ・便乗値上げでは困る。厳しい財政状況はわかるが、高齢者にしはよせ負担にでは困ることばかり。年金はあまり上がらず、物価の値上がりばなし。寿バスカードが唯一の救いです。高齢者の増加が予想されていたが、対策をされて居たものか？
- ・台場に住んでいるのでバス賃は往復¥760になり街中より負担はかなり多くなる。当然ハイヤーを利用するのも高くなる。
- ・近い将来自家用車を辞めようと考えています。公共交通機関は生活になくてはならない機関です。現状維持を希望します。
- ・高齢者、年金生活者（定額所得者）にとっては病院への交通機関、バスはかせないものです。乗客数が少ないと1日の本数又は区間の減で利用者は↓。バス会社への乗客数増の為に高齢者外出（健康のためにも）、バス会社支援ともなる今の寿バスカード継続してください。高齢者を外に出すということは、街・社会の活性化にも必要だと思います。バス会社も高齢者がお客様です。バス会社支援としても大事かと思います。
- ・子育て世代にはいろいろ取り組んでいますが、高齢者となると予算を削るのはおかしい。もっと高齢者を大事にする旭川であってほしいです。今の70歳は若いので75歳からでもいいと思います。バス券が高くなったりなくなったりしたら、お年寄りが外に出る機会が減ると思います。もっと違うところで予算を削っていただきたいです。

●「選択肢4 市の負担が増えるのであれば事業をやめてもよい」を選んだ理由

- ・若い人にお金（税金）を使うべきと考える。
- ・あまり乗らない
- ・自分のこと以外考えられない年齢ですが、幸い私には理解ある家族がいて幸せです。

- ・バスを利用するにはある程度の健康が必要。90才以上にはタクシーの助成券があると助かる（月1～2度の）。
- ・市の負担が増えないように考えてバスを利用しています。なるべく歩くように（健康のため）、足が悪くなり歩けなくなると外出は控えます。
- ・外出先の最優先は病院だが、路線の関係上、ほとんどバスを使うことはできない。遊興のためのバス代なので、高齢者だからといって優遇の必要はない。制度があるのでありがたく利用させていただいておりますけど。
- ・バス代の負担より他にまわしてほしい。

●「選択肢5 その他」を選んだ理由

- ・賃金を100円でなく200円にしたら少しはちがうと思いますが、事業をやめるのは反対です。歯医者の時などは治療費よりバス賃の方が高くなります。今は大変助かっています。
- ・自分自身は月1回有るか無しなので、変更が有っても大差無し。只まわりを見ると多少足が不自由でも「出かけてみようか」と「外出」に心動かされている方がいるように見うけられます。
- ・他に見直し刷るところがたくさんある。市議が多い。職員が多い（勤務している人が長いので給料もたかくなる。もっとパートでできることがある。）
- ・お金とバスカードを持っているとおとしそうになる時がある。
- ・利用しない人も増加する。
- ・無料の時もあり、早くから利用させて頂きありがとうございます
- ・病院通いに駅前より乗換を必要とする。1条25丁目迄と、神居2条4丁目に通うため必要以上に冬期間はタクシーの回数が増えて大変。
- ・年金額は上がらない。しかし物品は上がり生活はより厳しい。
- ・札幌市はなにもかも無料と聞いている。市は余分な服、靴、シューズスニーカー等、鉛筆ボールペン等まだ使えるのに与えている。その額は大きいと思う。民間は作業服を自分で購入している。
- ・杖を使用しているので
- ・①利用者数は対象者の約1／4であるが使用しない（できない）理由を調査したことがあるか②利用者に対する負担額が1人10万円弱とは多くないか。負担の根拠を知りたい。
- ・バス会社への補助金の算出根拠が不明で、過重な負担を市がしているのではないかわかりません。
- ・負担が3000円なら継続出来るのですか？負担が3000円になっても利用したい。なぜなら、夫が免許返納し質問4にある日常の全てがバスのたよっている。スマホも使わない。
- ・脳梗塞のため歩行ができません。バス停まで歩行できませんので寿バスは利用しません。
- ・高齢になると、何力所もの病院通い、年金受給者にとっては医療費と同じく負担がかなり多い。物価高になり、より以上に苦しくなる。実際には何人かの高齢者の意

見を聞いてもっと見える形で議論を市側はやってほしい。せめて交通費だけでも今まで通りお願いしたい。その他、質問の項目がわかりにくい。内容によっては質問13以下も答える形にした方が良いと思うがどうでしょうか？アンケートだけでは、まだわからない部分等があるので、どれだけ市側は理解してくださるのかギモンです。

- ・ IC カードは最初だけかかりますが、本人の出来る範囲でチャージして無理のない使い方になるのではと思います。年配者は動きがスムーズに行きません。障害者の方も同じです。乗降の時スムーズに出来るよう、IC カードの検討をお願いします。
- ・ 寿バスカードによって高齢の方々も外出することによって市の活性化につながるのであればと思います。
- ・ なるべく夫が家に居るとき、買い物、病院などに行くようにします
- ・ 少ない年金でとても助けられています。
- ・ ①買物（食品スーパー）に行こうと思っても週1日ぐらいなもので②利用するつもりでいるが特に冬場思っているが全く利用していない。
- ・ 私は1ヶ月数回（2、3回）、冬期間の5、6ヶ月利用していますが、バスカード取得¥2000と1回の利用料¥100払うのなら、寿バスカードはあまりお得感がないような気がしています。
- ・ バスに乗れるのは自分の足で行けるようになってからバスで通学通院できるのは私はうれしかったです。100円で安かったら150円でも良いです。タクシーより安いのでバス停まで歩くのもバスで通院出来るようになったからです。
- ・ あんいに肯否するものではありませんが、私は交通費のでない所に勤め高い交通費を払っていました。その時旭川が他都市からみて高いなと思っておりました。70才、低い年金者の足。車の維持費がかかるため止めた。車の運転の不安等々の為色々な事を考えて下さい。良い制度を止めることなく続ける事をどのようにするか。コロナに乗って無料だったのもおかしいと思ってます。
- ・ 70才以上の方に使われているカードの市負担において高くはないかと。この制度を利用して老人達を家から出かけてもらい、老〇の健康に視点を向けてはどうでしょうか？老人を一步でも家から出歩いてもらい旭川市内へ！
- ・ バスの悪い所に高齢者は住めない。
- ・ 高齢になるほど歩くのに時間がかかる。歩けない。バスを間違える等大変です。タクシー代も高く病院へ通院の数も多いので大変です。要支援だと助成金ももらえないのが現状です。
- ・ 遠方の病院通院、バス乗り換えしてバス利用しています。寿バスカードもし廃止となれば来年免許返納予定でしたが、練習してまた更新するしかない？

●選択肢を選択しなかった方の理由

- ・ バスは使用しないです。

質問13 質問12で「2」と回答した方への質問です。寿バスカードを利用できる条件を変更したり、新たに設けることについて、どのように考えますか。次の選択肢1

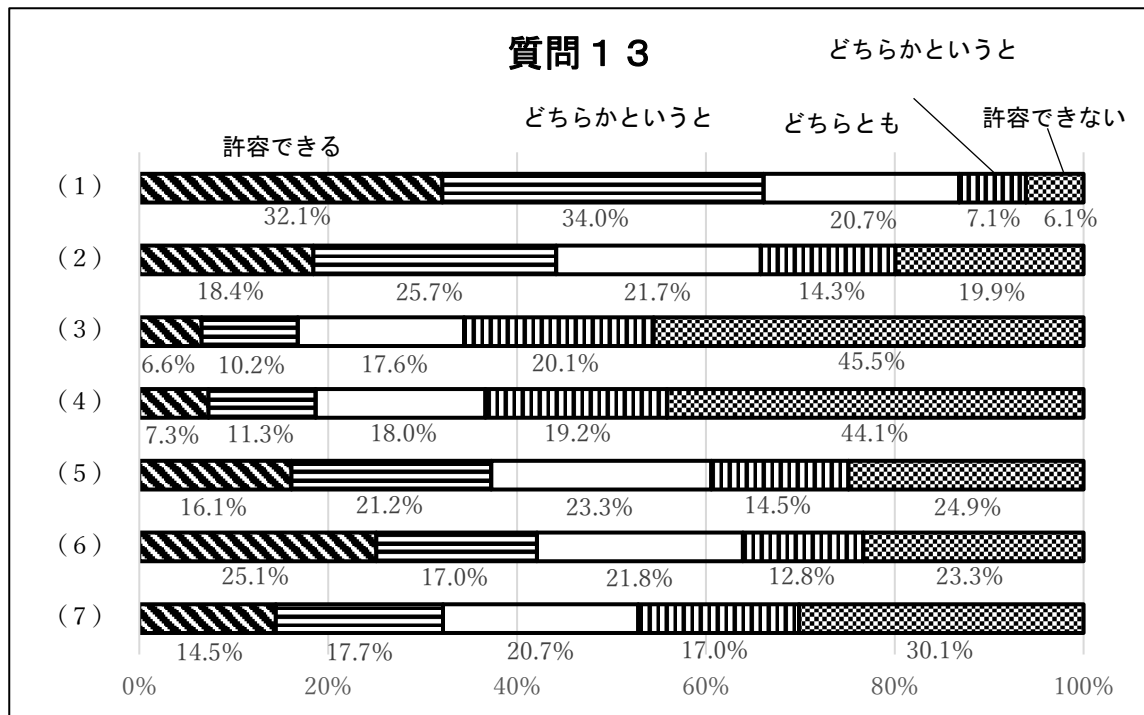
から5のうち当てはまる番号を、（１）から（７）までの場合について、それぞれお答えください。

- 選択肢１ 許容できる
 選択肢２ どちらかというとき許容できる
 選択肢３ どちらともいえない
 選択肢４ どちらかというとき許容できない
 選択肢５ 許容できない

- （１）70歳以上という年齢を引き上げること
 （２）2,000円（身体障害者手帳等の交付を受けている方は1,000円）の交付時負担金を引き上げること
 （３）寿バスカードが利用できる日（曜日）を限定すること
 （４）寿バスカードが利用できる時間帯を限定すること
 （５）寿バスカードで利用できる金額に上限を設けること
 （６）所得によって寿バスカードの利用を制限すること
 （７）1乗車100円（身体障害者手帳等の交付を受けている方は50円）の料金を引き上げること

質問13については、前問で、寿バスカードは継続するものの利用条件の変更はやむを得ないと回答した方に対して、（１）から（７）まで、変更する利用条件を提示し、それぞれ、許容できるか許容できないかを5段階で評価していただくものであった。

選択肢 の番号	上段：回答数 下段：回答割合						
	（１）	（２）	（３）	（４）	（５）	（６）	（７）
1	268 32.1%	137 18.4%	48 6.6%	53 7.3%	112 16.1%	183 25.1%	107 14.5%
2	284 34.0%	191 25.7%	74 10.2%	82 11.3%	147 21.2%	124 17.0%	131 17.7%
3	173 20.7%	161 21.7%	128 17.6%	130 18.0%	162 23.3%	159 21.8%	153 20.7%
4	59 7.1%	106 14.3%	146 20.1%	139 19.2%	101 14.5%	93 12.8%	126 17.0%
5	51 6.1%	148 19.9%	331 45.5%	319 44.1%	173 24.9%	170 23.3%	223 30.1%
計	835 100.0%	743 100.0%	727 100.0%	723 100.0%	695 100.0%	729 100.0%	740 100.0%



- (1) 年齢の引上げについては、許可できる、どちらかというたと許可できるが合わせて 66.1% を占め、許可できない、どちらかというたと許可できないの合わせて 13.2% に対し、約 5 倍に上った。
- (2) 交付時負担金の引上げについては、許可できる、どちらかというたと許可できるが合わせて 44.1% を占め、許可できない、どちらかというたと許可できないの合わせて 34.2% よりもやや多かった。どちらともいえないという回答も 21.7% あった。
- (3) 利用できる日の限定については、許可できない、どちらかというたと許可できないが合わせて 65.6% を占め、許可できる、どちらかというたと許可できるの合わせて 16.8% に対し、約 4 倍に上った。
- (4) 利用できる時間帯の限定については、許可できない、どちらかというたと許可できないが合わせて 63.3% を占め、許可できる、どちらかというたと許可できるの合わせて 18.6% に対し、約 3.4 倍に上った。
- (5) 利用できる金額に上限を設けることについては、許可できない、どちらかというたと許可できないが合わせて 39.4%、許可できる、どちらかというたと許可できるが合わせて 37.3% と拮抗している。どちらともいえないとする回答も 23.3% あり、賛否分かれる状況であった。
- (6) 所得による利用の制限については、許可できる、どちらかというたと許可できるが合わせて 42.1%、許可できない、どちらかというたと許可できないの合わせて 36.1% を上回った。どちらともいえないとする回答も 21.8% あった。
- (7) 乗車時の料金の引上げについては、許可できない、どちらかというたと許可できないが合わせて 47.1% と半数近くを占め、許可できる、どちらかというたと許可できるの合わせて 32.2% に対して、約 1.5 倍であった。

第2部 18歳以上の市民に対するアンケート結果について

1 アンケート概要

18歳以上の市民（70歳以上の方については、令和4年度に寿バスカードを購入していない方）3,000人を無作為に抽出し、令和5年6月27日に調査票を送付し、7月21日（金）まで（当日消印有効）を期限としてアンケート調査を行った。なお、調査票の送付は郵送で行い、回答の返送も返信用封筒を同封して郵送によることとしたが、回答者の選択によりウェブフォーム上での回答も可能とした。

結果、郵送による回答892件、ウェブフォーム上での回答161件の合計1,053件の回答を得、回収率は35.1%となった。

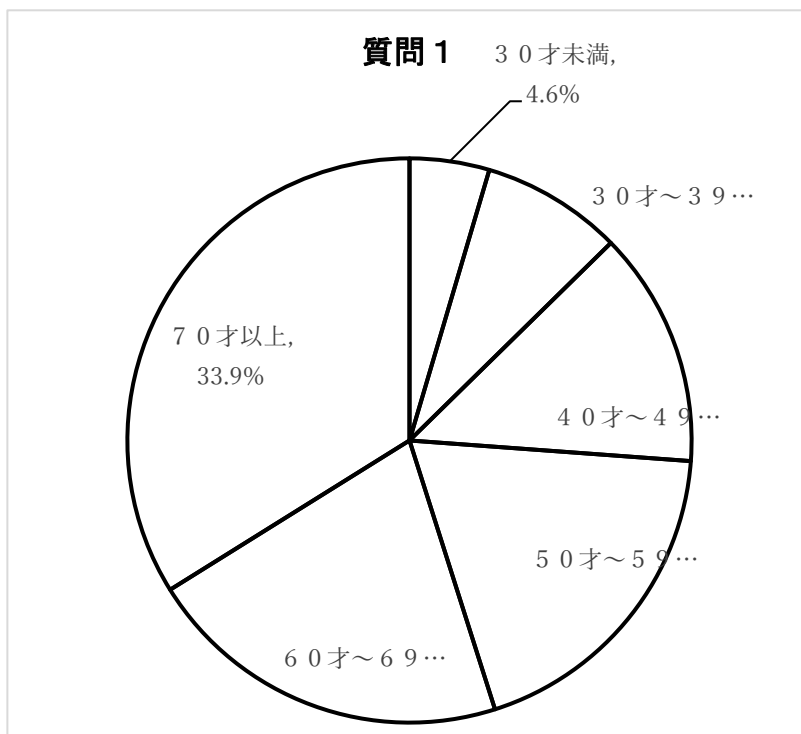
2 各質問への回答状況

質問1 あなたの年齢は。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 30才未満 | 2 30才～39才 | 3 40才～49才 |
| 4 50才～59才 | 5 60才～69才 | 6 70才以上 |

この質問は、回答者の年代を聞くもので、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は99.8%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢の番号	回答数	回答割合
1	48	4.6%
2	85	8.1%
3	142	13.5%
4	199	18.9%
5	221	21.0%
6	356	33.9%
計	1,051	100.0%



年代が上がるにつれ、回答数が向上している。

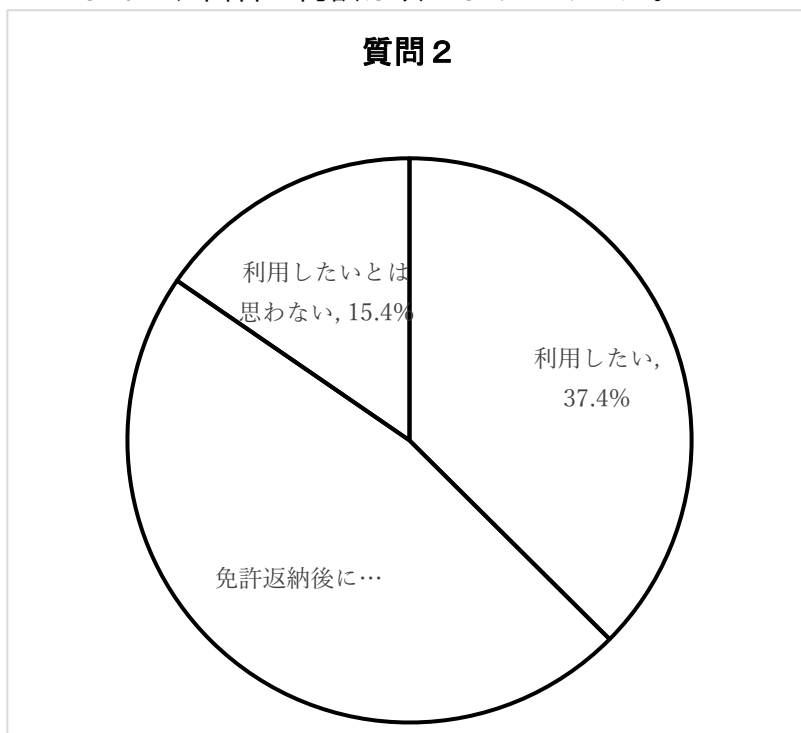
質問2 質問1で「5 60才～69才」と回答した方への質問です。将来、寿バスカードを利用したいと思いますか。

- 1 利用したい
- 2 免許返納後に利用したい
- 3 利用したいとは思わない

この質問は、前問で60才～69才と回答した方に対するものである。現在の寿バスカードの対象年齢を70才以上としていることから、直近で対象年齢に達していない年代の方に利用意向を確認することを目的としている。

回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は21.6%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	85	37.4%
2	107	47.1%
3	35	15.4%
計	227	100.0%



免許返納後も含めると、84.5%の方が利用の意向を示した。

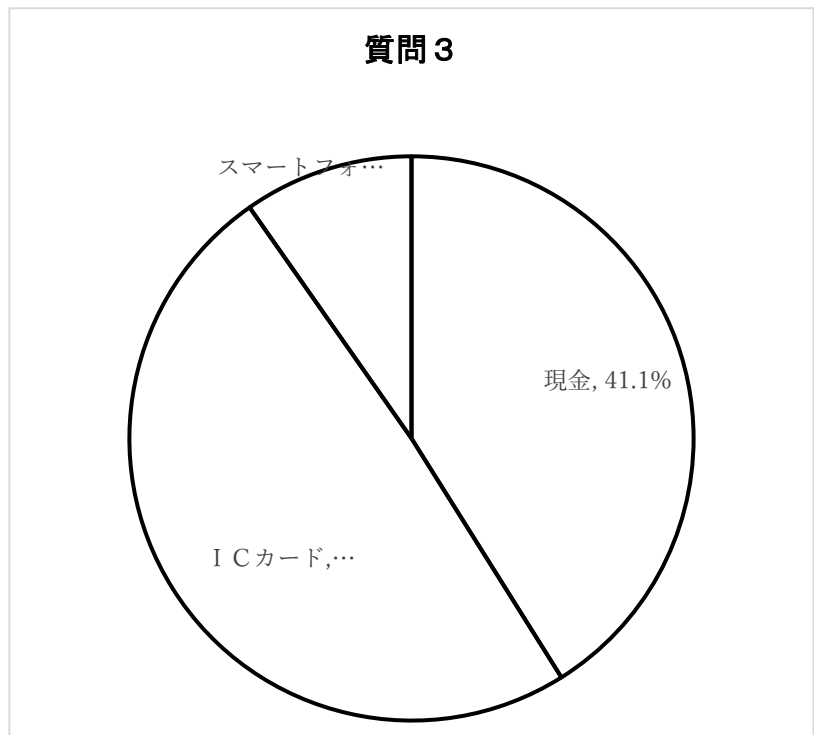
質問 3 質問 2 で「1 利用したい」又は「2 免許返納後に利用したい」と回答した方への質問です。バスに乗車した際の料金は、どのような支払方法だと利用しやすいと思いますか。

- 1 乗務員に寿バスカードを見せ、現金で運賃箱に支払う（現在の支払い方法）
- 2 支払い機能が付いた専用のカード（Asaca や Do カードのような IC カード）により支払う
- 3 スマートフォンにより 2 次元コードを読み取って支払う

この質問は、前問で利用の意向を示した方に対するものである。現在は乗車時の利用料金（100円または50円）は現金を運賃箱に投入する方法であるが、電子的な支払方法になった場合の受け入れやすさを確認しようとするものである。

回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は17.6%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	76	41.1%
2	91	49.2%
3	18	9.7%
計	185	100.0%



I Cカードが49.2%と約半数を占め、スマートフォンと合わせると58.9%と、現金が良いとする方を上回る状況であった。

質問4 質問1で「6 70才以上」と回答した方及び質問2で「3 利用したいとは思わない」と回答した方への質問です。寿バスカードを利用していない（利用したいとは思わない）のはなぜですか。

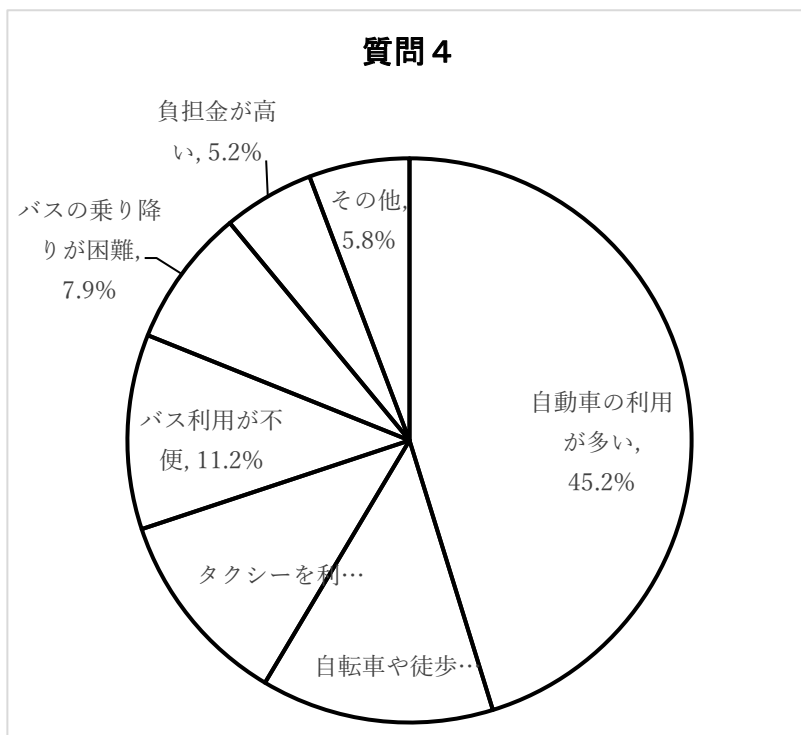
（当てはまる回答の番号には、すべて○印を記入してください。「7 その他」を選んだ場合は、カッコ内にその内容を簡単にご記入ください。）

- 1 自動車を利用することが多いため（家族などの送迎も含む）
- 2 自転車や徒歩で済ませることが多いため
- 3 タクシーを利用するため
- 4 バス停が遠い、バスの便数が少ないなどバス利用が不便であるため
- 5 バスの乗り降りが体力的に困難なため
- 6 交付を受ける際の負担金が高いため
- 7 その他（ ）

この質問は、質問1で70才以上と回答した方に対するものである。寿バスカードの対象年齢に達しているが、令和4年度は購入していなかった方に対し、購入しなかった理由を確認するものである。

回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものをすべて選択するものであり、複数回答のため回答数（555件）は回答人数よりも多くなっている。回答人数は339人で、全回答数に対するこの質問の回答人数の割合は32.2%、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	251	45.2%
2	74	13.3%
3	63	11.4%
4	62	11.2%
5	44	7.9%
6	29	5.2%
7	32	5.8%
計	555	100.0%



自動車を利用することが多いという回答が45.2%と半数弱を占め、自転車、タクシー等の他の方法で移動するという回答を合わせると約70%になる。一方で、バスの利用の困難性を挙げる方が合わせて19.1%、寿バスカード購入時の負担金が高額だとする回答が5.2%という結果であった。その他とする回答が5.8%で、内容はさまざまであるが、歩行が困難、施設に入所しているためというものが散見された。

【その他として記載された内容】

- ・ 交付の方法（手続き）が面倒そう。
- ・ 自分は幸福に娘が買い物など車で送り迎えをしてくれますので、あまり利用しなくても良いと思っています。
- ・ 仕事で車使用通勤
- ・ 夏は利用出来ても冬は寒くて停留所で待てない。
- ・ 2,000 円を払って取りに行くことや、使い勝手が悪い。
- ・ 歩行ができないため。
- ・ 要介護5の認定を受け、バスを利用することが困難なため。
- ・ この質問自体非常におかしい質問であることにあきらめました。年齢を回答しただけで利用したいとは思わない、利用していないという勝手な判断をしていること自体ばかりにしてる質問です。なぜこのような質問になるのか、この質問を考えた職員の方達高齢者支援係とは思えません。非常に不快です。
- ・ 利用機会が少ない、負担金の方が割高。
- ・ 徒歩
- ・ 要介護状態となった為、利用したくても車椅子ではバスに乗降できない為。
- ・ 嫌老社会、増々老人だらけ、市の財政悪化。ただし、市税等無駄遣いはやめてと。
- ・ 近くは徒歩で。

- ・バス利用回数が減少したため。
- ・今年度より使用。たまにですが利用しております。
- ・身障者で足が不自由。
- ・足が悪いため、冬場は歩道が高く乗り降りができない。（９条通、６条通）
- ・バス利用数と費用のバランス、コロナ禍。
- ・以前使ったが券の外にお金を出したり？、カード見せたり、面倒くさかった。
- ・私の行くところはバス利用が不便なため。
- ・施設に入所してます。車椅子を利用してます。
- ・施設に入所しているため。
- ・93才、グループホームに入所している為、バスには乗りません。入所前は寿バスカードはいつも使用していました。
- ・返納後は利用すると思う。
- ・自費で利用している
- ・今の所は弟や友達の車で買物行ったり用事がある時は車で行ってもらってます。ハイヤで行く時もあります。バスはコロナになってから乗りません。
- ・冬のバス停は何もなく寒く、バスが遅れてくることがある。
- ・上がるところが高くなっていたら足が上がりません。
- ・令和３年 11 月迄利用していましたが腰痛が寒い日急に悪化し歩くのがつらくなりそれ以来外出出来なくバスに１度も乗っていません。
- ・立ってられない、歩くのが困難。

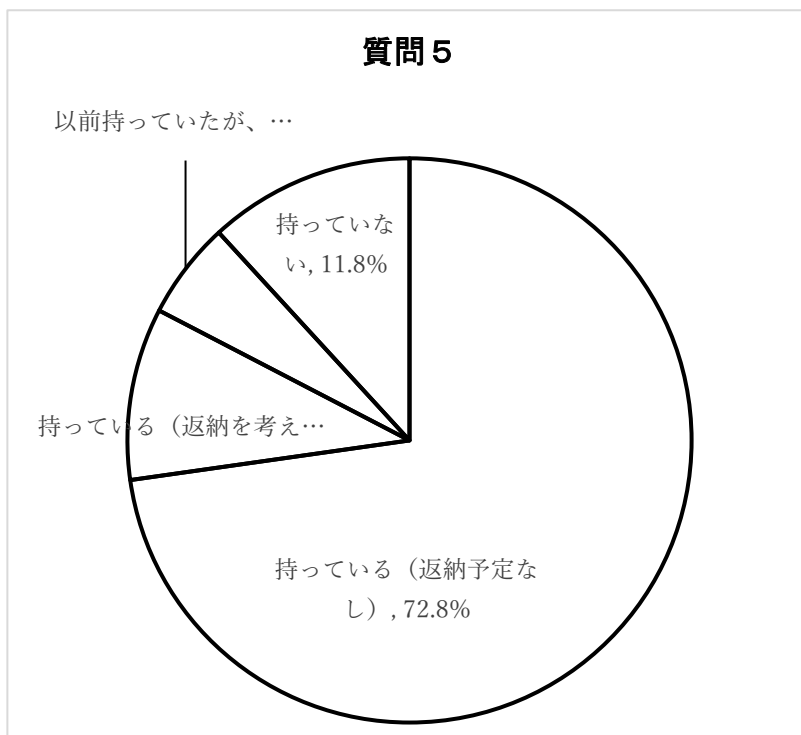
質問５ 自動車の運転免許証をお持ちですか。

- 1 持っているし、今後も免許返納の予定はない
- 2 持っているが、免許返納を考えている
- 3 以前持っていたが、返納した
- 4 持っていない

この質問は、自動車運転免許証の所有状況や免許返納の状況について確認するものである。

回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを１つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は９７．２％で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	745	72.8%
2	101	9.9%
3	57	5.6%
4	121	11.8%
計	1,024	100.0%



運転免許証を取得している方は、将来返納を考えている方も含めて82.7%と大部分を占めており、返納済みを含めて持っていない方を大きく上回っていた。

質問6 あなたは外出時に主にどのような方法で移動しますか。

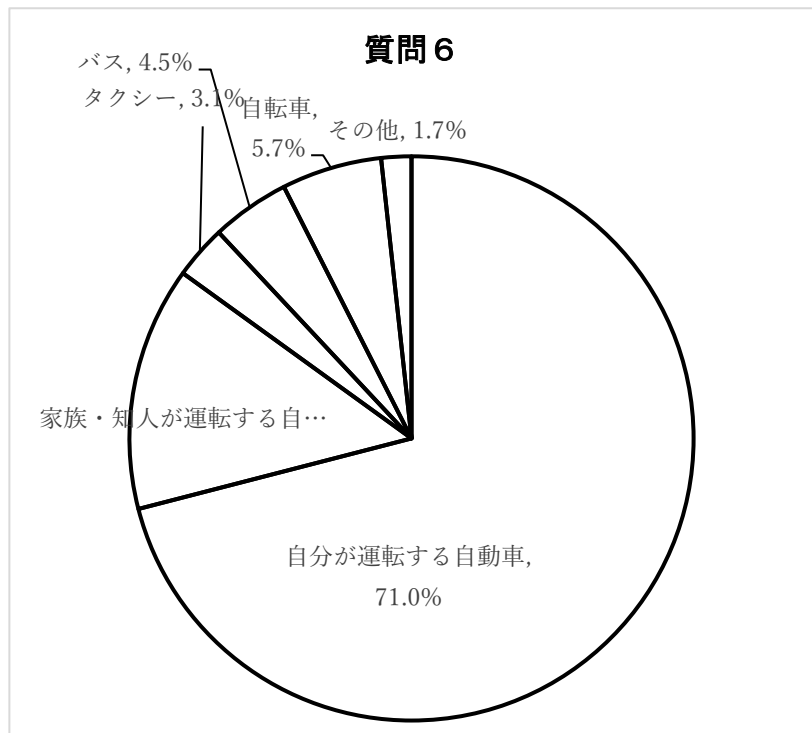
（「6 その他」を選んだ場合は、カッコ内にその内容を簡単にご記入ください。）

- 1 自分が運転する自動車
- 2 家族・知人が運転する自動車に同乗
- 3 タクシー
- 4 バス
- 5 自転車
- 6 その他（ ）

この質問は、外出する際の主な交通手段について確認するものである。

回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は99.1%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	741	71.0%
2	146	14.0%
3	32	3.1%
4	47	4.5%
5	60	5.7%
6	18	1.7%
計	1,044	100.0%



自分が運転する自動車という回答が71.0%を占め、家族や知人の車に同乗を含めると85.0%が自動車という回答であった。バスを主な移動手段としている方は4.5%に過ぎない。その他の回答の中では、徒歩が多数であった。

【その他として記載された内容】 ※同内容のものはまとめています

- ・ J R
- ・ 施設（グループホーム等）の車
- ・ 同行者がいる場合は同乗させていただく事が多い。単独の場合はバスを利用している。
- ・ 徒歩
- ・ 自宅から近い場所に移動するので徒歩です。遠くに外出はしない。
- ・ スーパーのカートを押すと楽なので車4ヶ付いた買物かごを買い月1度位食事の品、その他必要な品を買いに行く。長く立っているのもつらいのでほとんど外に出ません。

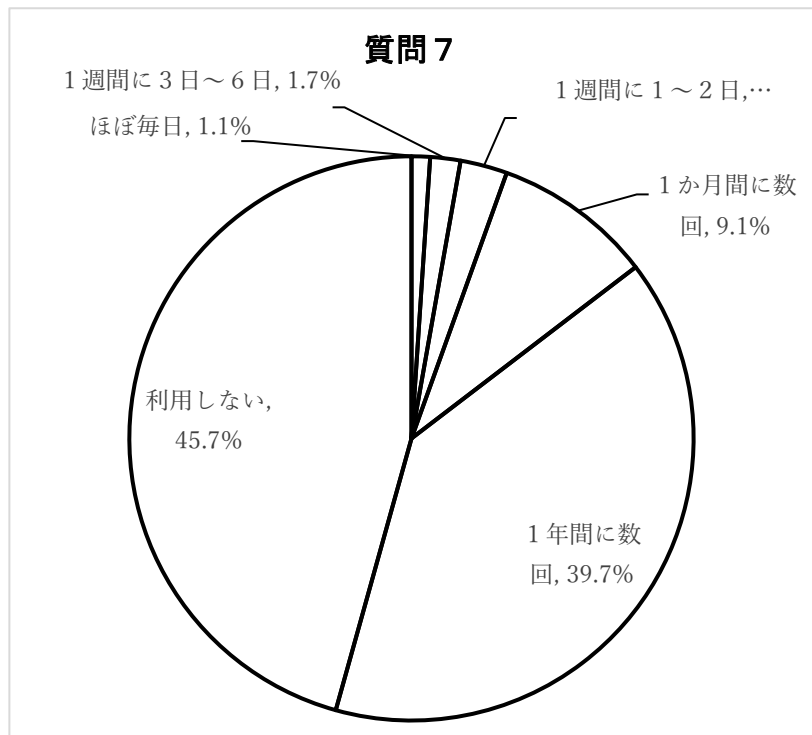
質問 7 バスの利用頻度をお答えください。

- | | | |
|-----------|-------------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 1週間に3日～6日 | 3 1週間に1～2日 |
| 4 1か月間に数回 | 5 1年間に数回 | 6 利用しない |

この質問は、バスの利用頻度について確認するものである。

回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものである。全回答数に対するこの質問の回答率は98.8%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	11	1.1%
2	18	1.7%
3	28	2.7%
4	95	9.1%
5	413	39.7%
6	475	45.7%
計	1,040	100.0%



バスを利用しないという方が45.7%、1年間に数回という方が39.7%と、この2つで85.4%を占めている。一方、1週間に1～2日以上利用するという方は合わせて5.5%で、この割合は、前問でバスを外出の際の主な交通手段としている方（4.5%）と比較的近い結果であった。

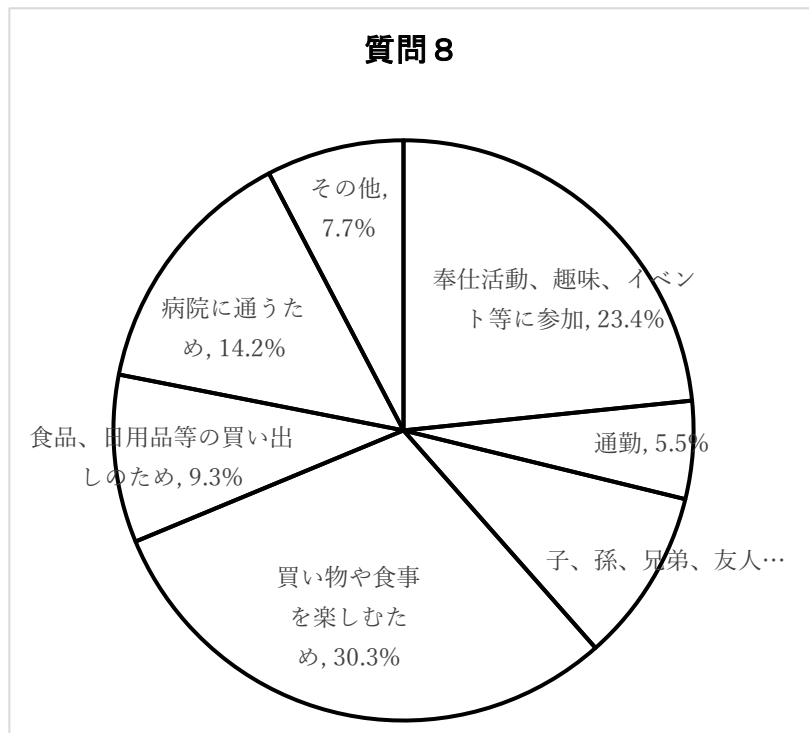
質問 8 質問 7 で 1 ～ 5 の番号を回答した方への質問です。バスを利用するときの目的は何ですか。

（利用目的に近い回答の番号には、すべて○印を記入してください。「7 その他」を選んだ場合は、カッコ内にその内容を簡単にご記入ください。）

- 1 奉仕活動、趣味・レクリエーション活動、イベント等への参加のため
- 2 通勤（仕事）のため
- 3 子ども・親、孫・祖父母、兄弟、友人等と会うため
- 4 買い物や食事を楽しむため
- 5 食品、日用品等の生活に必要なものを買いに行くため
- 6 病院に通うため
- 7 その他（ ）

この質問は、前問で年に数回でもバスを利用するとした方に対するものである。バスの利用目的について尋ねるもので、回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものをすべて選択するものであった。複数回答のため回答数（899件）は回答人数よりも多くなっている。回答人数は554人で、全回答数に対するこの質問の回答人数の割合は52.6%、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	210	23.4%
2	49	5.5%
3	87	9.7%
4	272	30.3%
5	84	9.3%
6	128	14.2%
7	69	7.7%
計	899	100.0%



バスの利用目的として最も多い回答が買い物や食事を楽しむための30.3%、次いで奉仕活動、趣味・レクリエーション等のための23.4%と、生活を楽しむための理由が過半数となった。一方で、通院、食品・日用品等の買い出し、通勤が合わせて29%と生活する上で欠かせない交通手段の側面も見える。

その他が7.7%を占めるが、その中で圧倒的に多い答えは「飲酒する場合」、次いで「旅行で空港や駅まで行くため」というものであった。

【その他として記載された内容】 ※同内容のものはまとめています

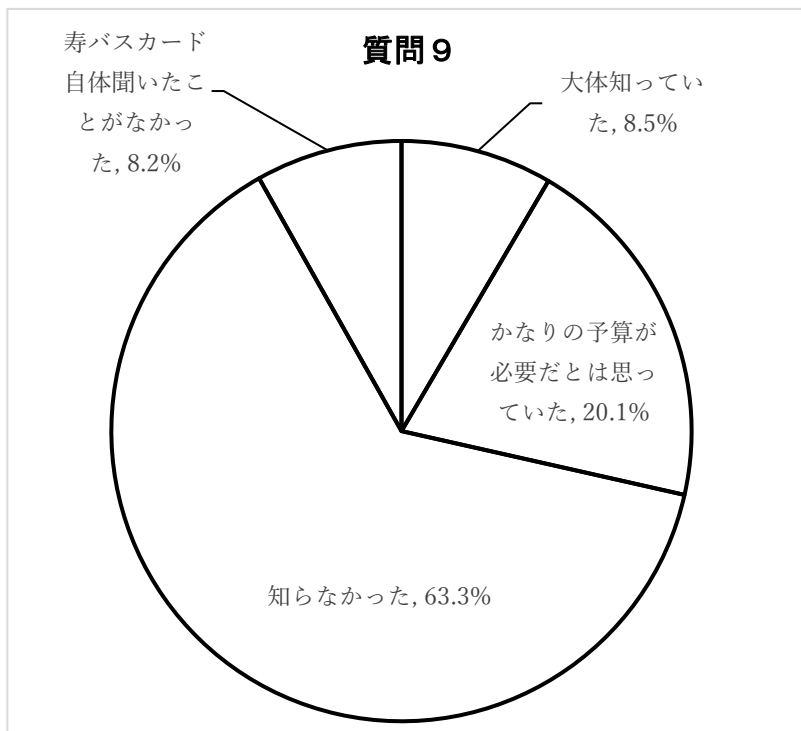
- ・JRが運転を見合わせているときに利用。
- ・飲酒を伴う外出時
- ・自分で運転出来なくなる飲み会参加や駐車場のない祭りに行くため。
- ・市役所に行くため
- ・飲食
- ・空港、駅、長距離バス利用等旅行に行く時。
- ・雨の日、冬。
- ・仕事での同行の時に使用する。
- ・所用
- ・車がない時などやむを得ない時。

質問 9 この事業を行うために、市の予算は令和5年度で2億円程度を必要としていることはご存じでしたか。

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1 大体知っていた | 2 かなりの予算が必要だとは思っていた |
| 3 知らなかった | 4 寿バスカード自体聞いたことがなかった |

この質問は、寿バスカード事業に使用する市の予算を知っていたかどうかを聞くもので、回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択するものであった。全回答数に対するこの質問の回答率は98.9%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	88	8.5%
2	209	20.1%
3	659	63.3%
4	85	8.2%
計	1,041	100.0%



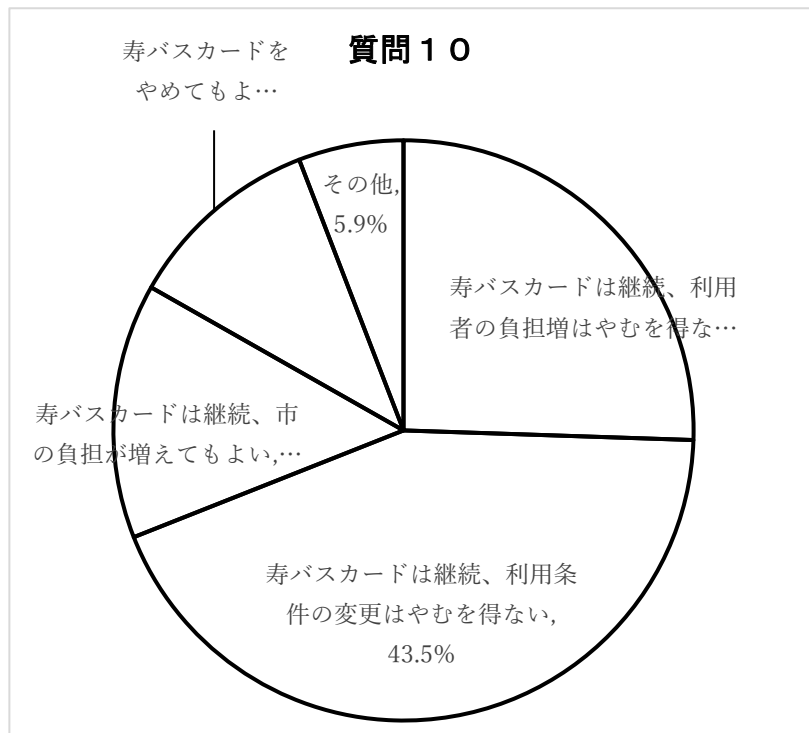
最も多かった回答は、知らなかったの63.3%であった。

質問 10 今後、旭川市の高齢化は更に進み、寿バスカード事業を実施するために必要となる予算が増加し、市の負担が増えていくことが予想されます。一方で、高齢者の利用によりバス路線が維持されているという考え方もあります。これを踏まえて、今後事業の継続に対する考えをお聞かせください。

- 1 寿バスカード事業は継続すべきであり、市の負担を抑えるために利用者の負担が増えるのはやむを得ない
- 2 寿バスカード事業は継続すべきであり、市の負担を抑えるために利用できる条件の変更（例えば、年齢の引上げ、利用回数の制限）などを行うことはやむを得ない
- 3 寿バスカード事業は継続すべきであり、市の負担が増えてもよい
- 4 市の負担が増えるのであれば寿バスカード事業をやめてもよい
- 5 その他

この質問は、市の負担が増えていくと予想される中で、事業の継続に対する考え方を聞くものである。回答は、提示した選択肢の中から当てはまるものを1つ選択し、その理由を記載するものである。全回答数に対するこの質問の回答率は99.9%で、回答の内訳は次のようであった。

選択肢 の番号	回答数	回答割合
1	266	25.5%
2	453	43.5%
3	148	14.2%
4	114	10.9%
5	61	5.9%
計	1,042	100.0%



寿バスカードをやめてよいという意見は10.9%にとどまり、寿バスカードの継続を望む意見は83.2%であった。継続を望む意見の中では、利用条件の変更はやむを得ないとするものが最も多く43.5%、次いで利用者の負担増はやむを得ないとするものが25.5%、市の負担が増えても良いとするものが最も少なく14.2%であった。

その他の意見は、バスの小型化というものが複数見受けられたが、内容は多様であった。

【その他として記載された内容】

- ・利用者の負担増と利用回数の制限を行いＩＣカードで管理すべき。
- ・高齢者の運転免許返納促進。
- ・寿バスカード申込金をとらないで年令表示で乗ることが出来ればよいと思います。
- ・必要であれば寿カードがあるなしにかかわらず高齢者はバスを利用する。無償であれば別だが、そんなに必要とは思わない。
- ・必要な人のみにしぼれば良いと思います。
- ・自分がまだバスを利用する頻度が少ないので、70歳になってみないとわかりません。便利になるなら車に乗るよりバスを利用したいけど、仕事に行くのにバスの利用の仕方が（バス停の場所、何番のバスに乗るかとか）分からないので、仕事をしなくなったら利用したいと思います。
- ・年金の支給額に応じた事業にしてはどうでしょう。年金が月に10万円以上支給されているなら、普通にバス代金を支払ってもらってもいいのでは…
- ・ぜひ、バス会社が直接販売するようなＩＣカード形式だと良いと思う。利用したい方だけが窓口などで本人確認で購入できるなど。
- ・廃止すべき。
- ・事業継続は当然行うべし。しかし減額されている年金から利用者負担増は厳禁。敬老の日削減分でまかなうべし！！

- ・市の負担とは税金です。寿バスカード事業がなくなるのはやむを得ないとは思わないが、税の負担が増えるのもやむを得ないとは思わない。悩ましい問題ですね。
- ・市の負担を増やして行うべきだが、税金を上げるのはおかしい。市の給料＋ボーナスもらいすぎ！！そこから払ってあげて下さい。
- ・割引は必要だが、100 円は安すぎる。
- ・今は利用していないのでわからない。
- ・寿バスカードがなくなると困る方がたくさんいると思います。継続すべき。ただし高齢者と言っても収入源年金受給者が多いと思うが、国民年金受給者等は非常に少ない生活保護以下を見てきた。公務員他の年金は生活の保証がある収入源に思う。収入のラインで線引きし使用できる人できない人に分けると財政上良いと思います。
- ・効率の良い方法を検討すべき。例えば時間、区域の詳細を調べて、状況分析、意向調査、町内会等利用して。
- ・利用者の生活状況に応じて必要であれば発行で良いのでは？
- ・公共事業の見直し、市会議員の削減、公費の無駄遣いなど市としての努力をすべきで、福祉の予算を削るべきではないと思います。
- ・今のバスを小さくしてください。でかいバスはいらない。ＪＲになるよ！
- ・寿バス専用のマイクロバスいいと思う。ラッシュの時は乗れない。病院など、間に合わない。
- ・国の事業として予算を組むべき。
- ・自宅近くにバス停はあるがバスが走ってなく利用しようがない。
- ・事業は継続すべき。廃止はありえない。
- ・市のバスでスーパーや病院への送迎システムにする。
- ・やめて経費浮いても、その使い道が有効（市民の為）使われないと意味ない。（例えば市議の人数、償収、手当など多すぎ。それを減らせば寿バスやめる必要ない）
- ・道や国としての支援があるといいと思う。
- ・バスの路線も本数も少なく利用しづらい。バスじゃなくタクシーにして欲しい。
- ・乗降所、便数の増加等を検討しない限り高齢者の利用は今後も増が見込まれないと思う。
- ・すっかりなくなっても困る人も居ると思うので、その実態に応じて本当に必要としている人に出して頂けると有りがたいのではと思う。
- ・70 才以上を 65 才にし、利用対象者を増す。交付負担金を全員 1,000 円（カードの原価にもよるが）、1 回につき 100 円でなく、割安感のある回数券をバス会社で購入。老人が病院へバス利用だけじゃ寂しい。動物園でもサイパルでも映画でも行きたくなるような場所や行事を考えてほしい。限定や中止はすぐ出来るけど…
- ・79 才の自分は、冬であれば安全を考えて（病院に）近くてもタクシーを呼ぶが貧しい人も居る事を考えると収入で決めた方が良いのではないかと思います。
- ・現状のダイヤを利用しているのだから、バス会社と市である程度負担すべき。
- ・市街地から離れた地域に住む高齢者の負担を増やさないように取り組むべきだと思います。
- ・必要な方のみうければ良いのでは。

- ・元々高い契約をしているのでやり直す（バス会社）。
- ・お互いの負担が少ない方法を見だし実行して欲しい。
- ・予算の使われ方が解らないため判断できない。
- ・ここを削減するより、議員削減を検討してもらいたい！！旭川市民減少の割に市議は減り方が少ない。
- ・わからないから申し訳ありません。
- ・コミュニティバスなどの少人数小規模のコストをおさえる方法を考える必要があると思います。（寿バスカードを止めた場合）
- ・対象者は増えてるが利用者は減ってますよね。このような出し方ではなくて市が毎年負担している金額が記載されている方がわかりやすいのでアンケートの解答もしやすい。そして年間 2000 円負担ではなく子供料金と同じ毎回半額での乗車にしてみてもは？と思います。
- ・国の補助を受けて早期に小型・中型電動バスを導入したうえで、又、導入の推進と並行してバス路線・事業は現況を維持してほしい。（高齢化対策に何か国の補助はないのでしょうか？）
- ・世帯ごとの収入・資産により発行する。資産のない者、収入の低い者。
- ・別の手段（乗り合いタクシー等で）経費をおさえることは可能でしょうか？
- ・高齢者の移動による消費の増加と市の負担を比較して考えるべき。
- ・バスにこだわらない予約乗り合いのような交通手段。
- ・継続はした方いいと思うが、制度や時間帯など見直すべき。
- ・上記の 1、2 両方が必要と思います。
- ・一言では言い表せないけど、一人暮らしのおばさん(父の義姉 80 代)が使っていることを考えたら、必要としてる市民がいることは確かかなとも思う。しかしながら、実母(70 代後半)は健康で 20 分ほど歩いて駅まで行く。バスに乗るのは買い物をして荷物がたくさんあって、尚且つちょうどいいタイミングでバスが来た時のみ。
- ・年齢の引き上げには反対で、むしろ使用年齢を下げるのはどうか？

【各選択肢を選んだ理由】

- 「選択肢 1 寿バスカード事業は継続すべきであり、市の負担を抑えるために利用者の負担が増えるのはやむを得ない」を選んだ理由
 - ・子どもの代に負担を増やしたくない。
 - ・高齢になって免許を返納した場合、次の交通移動手段がバスだと思うが、実情年金も少ない介護保険や諸々の物が高齢者は生活も大変なので助けるべきである。年金の少ない人は特に大変なので制限するならそういう人を対象にすべきだと思う。
 - ・車の運転ができなくなればバス利用に頼るようになるが、その時に寿バスカードの事業がなくなると大変不便になるため。
 - ・高齢者の免許返納をさまたげないようにするため。
 - ・今でもバスの本数が少なく不便だと感じている。利用者が減り、これ以上不便になると困る。
 - ・高齢者に運転免許証を返納して頂くには、車（私有車）以外の足となる物が必要だ

と思うので。多少の持ち出し金額はしょうがないと思う。

- ・料金は半額くらいでもいいのでは。
- ・高齢者と市の財政の両方のためにと考えたからです。
- ・免許返納は必要！その足の確保も必要！お金がないなら負担が増えても仕方がないが、返納者は減るだろう。返納者や車のない 70 才以上のみの寿バスカードは？車保有者でも資格はあるの？
- ・高齢者だけに税金を使うのはおかしい、子どもがいる世帯にももう少し支援して頂きたい。
- ・今後ますます税収が減るので、受益者負担を考える事はやむを得ないと思う。
- ・1 億円ぐらいの負担で済むように交付する際の料金をあげたら良いと思います。1 日に最低でも行き帰りの 2 回は乗車することになると思うので仮に交付料を 5000 円にしても十分なメリットがあり、利用者も元を取ることができると思いますので、利用者の負担が増えるのは仕方がないことだと思います。バス料金のためだけに年間で市の税金を 2 億円も使うのはどうかとおもいます。
- ・今は自分で運転出来るが、高齢になって運転出来なくなると買い物や病院の通院に移動手段は必要なので、バスが割引で使えたら生活しやすいと思います。
- ・高齢者が健康的に外出することが、まわって経済を活性化させることにもつながる。高齢者向けの産業を充実させれば、市民の負担も減るだろう。高齢者の運転はかなり危険であり、事故などによる損失も少なくない。この土地から高齢者に逃げられたら、先は暗いと思っている。
- ・車を持たない、あるいは免許を返納した人にとっては、バスは重要な移動手段であり、これを制限することは違う問題を起こすことになる。
- ・受益者負担が原則であり、一定程度の税金による助成は必要と思うが、あまり市の負担を大きくするべきではない。
- ・高齢化が進んでいるので、高齢者自身の負担は仕方がない。働き世代にばかり負担を増やすのはおかしい。物価が上がって大変なのはみんな同じ。
- ・たくさん利用する方には負担額を多く払う等で維持するべきだと思う。
- ・この事業で助かっている高齢者の方々は沢山居ると思うのでやめるべきではないと思う。市の情勢との兼ね合いで、それを希望する方の負担が増えるのはある程度やむを得ない事だと思います。そして、かなり高齢の方でも車の運転を続けているケースが多いのは病院への通院などで車がどうしても手放せないという現実があり、そのような方が運転を辞めた時に利用する交通手段として多いのは、タクシーなのかなと思います。そう考えると、バスの助成の他にタクシーの利用に対しても何かあるといいのかもしれませんが、費用の捻出が最大の問題かと思います。
- ・真面目に働いて、少ない年金で節約しながら生活している方に少しでも援助出来るのであるのなら、税金の負担は納得しますが、納めるものも、納めずに生活保護を受給されている方は対象外にして欲しい。生活保護受給者の為に、援助や増税は納得出来ません。真面目に働いてきたお年寄りに優しい街にする事は賛成です。
- ・私は旭川で生活する中で自動車は必要不可欠で、そう思っている方が多いと思います。高齢者の方は免許の返納をされていたり、タクシーだと料金が高く頻繁に利用

することも難しく、バス利用のしやすさは大事なことなのかな、と思うからです。

- ・親は、80歳代だか、バスはほとんど利用していない。バス停まで行くのも大変なので、タクシー利用が多い。全ての対象者が利用できるわけではないので、利用者の負担が少し増えるのは、仕方ない。
- ・高齢者の利用でバス路線が維持されていることは確かだが、高齢者の中でも、障害の有無にかかわらずバスを利用できない方もおり、公平性という点で考えたときに、寿カードの一回につき100円で乗車できるという仕組みは、随分バスに乗れる方を優遇しているように感じた。また、コロナ禍によりバスの便が大幅に削減され、学生の通学時間にバスがなく、保護者が送迎せざるを得ない方もいる。高齢者のバス利用でバス路線を維持するのではなく、他のやり方でバス事業者を支援することも考える必要があるように感じる。
- ・自分がバスを利用すると考えて、一回のバス代が200円～300円内でも利用するのではないかなと思うから。
- ・バス会社の利益も減るし利用しない年代での負担が大きくなるのは納得できない
- ・高齢化社会は今後もますます進み、財政危機のリスクは増す一方。高齢者も収入に応じて負担増となるのはやむを得ないと思います。
- ・免許返納が増えなくなる。事故につながる。
- ・利用者負担が増えるのはやむを得ないと思うが、所得の差もあるので、そこら辺どうなのかなと思う。
- ・いずれ車が運転できなくなった時の主な交通手段はバスになると思う。バス利用時の負担が増えても良いので、継続してもらいたい。

●「選択肢2 寿バスカード事業は継続すべきであり、市の負担を抑えるために利用できる条件の変更（例えば、年齢の引上げ、利用回数の制限）などを行うことはやむを得ない」を選んだ理由

- ・自動車を自分で運転できない高齢者にとって、バスは重要な移動手段なので、事業をやめるべきではないと思う。かといって市の負担が増えるのであれば、利用回数の制限などを決めて負担を減らすべきだと思う。
- ・利用回数の制限があっても良いと思う。
- ・予算内でできないのであればやめるべき。高齢者、子供がいる家庭、非課税の人たちにはいろいろあるけど、それ以外の人に何も無いのはおかしい。子供がいなくても、1人でも生活が苦しいのは一緒。予算内にやればいいだけ。利用者の金額を上げれば良いと思う。
- ・年齢的にバスの乗下車が大変になってきた。
- ・高齢者は自家用車の利用は難しくなり、核家族化の現代、家族の協力も難しいため、通院等、寿バスカードが利用できるのは経済的な面からも有難い。
- ・高齢化が多いため75歳以上にまだ元気な方が多い。
- ・どちらと決めることはできない。事業を進めていって本当に利用する人がいるかわからない。（例）タクシーも併用して進めるとか、ほかにも方法はあるのではないかな。

- ・高齢者の外出のための手段は確保し、市が支援すべきである。
- ・近くにスーパー、病院があり、バスを使用することはないが、郊外に住居を持つ人にとっては大事な交通手段だと思いますので。
- ・高齢者の方が病院へ通うことが出来るようにはしてほしいと思います。
- ・負担が増えれば税金の増にもなることから年齢の引上げが妥当と考えます。
- ・そもそも寿バスカードという高齢者だけを優遇するシステムがいない。低所得の子育て世代もよっぽど冬の移動手段に困っていた。雪のない時期であればそれなりに自転車が乗れるのなら 70 才でも 75 でも健康維持として自転車で。所得と利用回数制限も必要。
- ・高齢者による自動車の事故が増えており、免許返納を考えたときに寿バスカード事業があれば安心できると思う。ただ、年齢は 75 才以上で利用回数も年間で何回など制限は必要だと思う。市の財政負担を考えると将来が心配です。
- ・多少の負担は良いと思う。
- ・寿バスカードに関係ない利用者の負担が増えると、その人たちがバスを利用しなくなってしまったらまた大変になるので、寿バスカードを利用している人たちに負担してもらえないと思います。それで寿バスカード利用するのをやめたという人がいたとしても、それはそれで市の負担が減るので問題ないと思うのですが…
- ・免許返納を先のばしにしたり、通院などがむずかしくなる人もいるのではないのでしょうか。所得の制限はあってもいいと思う。
- ・街中に住んでいるので個人的には必要ないけれど、バス事業関係の人も無くなっているのでは…？
- ・利用回数制限と番号札（乗車するときの番号札）の半額支払にする。
- ・寿バスカード事業はすごくいいシステムだと思うが、高齢者予備軍的な人には必要ないと思う。又、より高齢（認知、障害など）があればバス停に行くこと、乗ることなどが無理になるので難しいと思う。
- ・昨今の高齢者による踏みまちがい事故の多発を考えるとバス路線の維持や高齢者が利用しやすい公共交通機関の仕組みを整えることは大切だと思います。寿バスカード事業を止めた場合、事故の増加や介護の問題が増えると思うので維持してほしい。
- ・財政負担増に反対の為。
- ・家族が利用しているので継続してほしい。利用回数の制限はやむをえないと思います。
- ・免許返納すれば利用できるのはバスであり、年金生活での生活では経済的にタクシーなども利用出来ない為ひきこもらざるをえない。
- ・大型バスではなくマイクロバスの利用で便数を増やすなど対策して欲しい（便が減った）。高れい者、病弱者の方かわいそう。通院されている人には寿バスカード必要とされているかもですね。
- ・としよりだから。
- ・所得が低く自家用車がない場合はどうしても不便でバス利用が必須だと思うので、低所得者に限り寿バスの利用ができるとか、制限をした方がいいと思う。
- ・主にバスを利用するのは、学生と高齢者が多く占めていると考えるからです。高齢

者の元々の年収に応じて、料金を引き上げるなど検討はいかがでしょうか。

- ・市の負担を抑え、かつ利用者の負担増を回避するために、やむを得ない考える。市も利用者も無い袖は振れない。
- ・高齢者が免許返納した後、移動手段がないし、収入もないので、通院、買い物等が不便であるため。
- ・毎日利用される低所得高齢者が一定数おられるとするならば、一律運賃上げはどうか？と思います。運賃上げが必須とするなら、所得割りも勘案すべきと考えます。
- ・利用の目的等を分析して、使用目的が多い理由のものに制限しても良いのではないかと？ただただ負担が増えるのは困る。
- ・交付時負担金は身体障害者手帳を持っている人も同じく 2000 円で良いと思った。利用回数の制限をするのであれば負担金はそのまま、無制限なら負担金を増額しても良いかと思う。免許返納した高齢者（もしくは免許を持っていない方）に限定することで免許返納率が上がり事故防止にもなり良いと感じた。
- ・各個人が他の移動手段も考慮しつつ、利用回数を減らしたり、年齢の引き上げをするのが望ましいと思います。
- ・バス路線の維持は必要だと思いますが、物価高が続く中、子育て世代も家計が苦しいです。あらゆる事業にまんべんなく予算を使って頂きたいです。
- ・高齢者人口増加で市の負担軽減のためには、バス利用する高齢者の市民が何らかの負担をする必要はあると思う。
- ・免許返納への布石であり、返納者に対して優遇されるシステムが必要。
- ・無くしてはもらいたくない為。
- ・車の運転が難しく収入に不安がある人も多い高齢者の負担軽減になるため事業は継続すべきだが、高齢者に一律、無制限に利用を認めるのは市や現役世代に過剰な負担を強いるため反対である。幅広い世代の理解を得ながら持続可能な形で事業を継続するためにも、条件変更はやむを得ない考える。
- ・少子高齢化に伴い、高齢者の増加は逃れられず、高齢者ドライバーの事故も多発している中で寿カードの完全廃止は、高齢者にとって酷なことだと思います。人生 100 年時代、多少年齢の引き上げは医療の進化に伴って可能だと思いました。
- ・制度自体はとてもいいと思います。私も高齢者になった時の交通手段を考えると経済的に自家用車やタクシー等を利用することができない可能性もあるので制度自体は継続してほしいです。ただし対象者に対して利用者が 30%しかいないものに対して現状から負担額が増えて財政が厳しくなるまで継続する必要はないと思う。とりあえず廃止というより段階的に縮小が妥当ではないでしょうか。複数回利用している方を対象に変更希望。恐らくかなりの回数を利用する方は少し負担が増えたところで行動が極端に制限されるようなケースは少ない気がします。
- ・旭川の地方になると、バスが誰も乗ってないか、数人くらいの時をよく見かける為。バスでなくてワゴン車のような小型車を代用したり、無駄を無くすためその日利用する人はあらかじめ予約できるようにする等も検討かと。また自動運転のバスも走れるような法や、環境作りも同時に必要かと。コストの削減で交通弱者も快適だと、

旭川の価値も上がるのではないかと思います。

- ・ 本当に必要な時に使うという方向にすればいいと思う。
- ・ 祖母が運転免許証を返納し、以降はバスや自転車で移動しています。バスが安く利用出来ることは祖母にとって大きなメリットです。また将来自分も利用するかもしれませんし、事業は今後も続けてほしいと思っています。
- ・ 高齢者はそんなにバスを使って外出するのか？でかけるにしても徒歩圏内が多いような気がする。事業をやめるまでしなくてもなにか良い案がありそう。
- ・ 高齢者の免許返納につながり、それで交通事故が減るなら交通手段の割引自体は良いと思う。しかしそれが市の大きな財政負担となるようでは本末転倒だ。過度に利用している人がいるはずだから制限はむしろするべきだと思う。
- ・ 旭川市とバスがどちらも継続していけるように使える予算を決めて、その中でできることを考えるというのは自然なことだと思うからです。ただ、システムが複雑になると対応できないお年寄りも多いでしょうから、わかりやすい仕組みにする必要があると考えます。曜日や時間で区切ると混乱が生じると予想できます。
- ・ 認知力が落ちてきた方は積極的に免許の返納をしてもらいたいから。収入を市は把握しているのだから所得制限を設けたらよいから。
- ・ 高齢者やバスの維持のためにも取り組みを続けたほうが良いと思います。ですが市の負担を考えると私達の年代でも支えきれないし子育て世代としては個人の負担にかかってくるのも厳しいものがあります。なのでとりあえずは制限をかけるのが妥当かと考えます。
- ・ 財政の収支、需要と供給のバランスを考慮したため。行政サービスは見直すことも必要であり寿カードにこだわることもないと考えます。私共の地域ではバスよりJRのほうが利用しやすい。利用しない人からすると行政サービスの格差があるのでそのようなところはどの様に対応すべきか私共の寿カードにこだわることもないという理由になります。支えなければならない高齢者を守ることを優先し、代替えのサービスの提案をご検討いただきたい。よろしくお願いいたします。
- ・ 高齢者も住みやすい街になるとよい。しかし、若い世代に重い負担をかけるのは、可能な限り避けたい。よって、利用回数に上限を設けると良いと思う。
- ・ 高齢者の自家用車以外の交通手段確保とバス事業者への支援の観点で継続すべきと考えるが、高齢者人口が増加する中で元気な高齢者も一定割合いると思われるため、年齢条件を見直すなどしても目的を果たせると考えたため。
- ・ 高齢者は反射神経など衰えてるので車の運転が危ない方が多いので免許証の返納をしてほしいから。でも車がないと不便なのもわかるので。
- ・ 車や自転車に乗られるより安全免許返納する場合、交通手段は主にバスになるため、交通費の何かしらの支援は必要。

●「選択肢3 寿バスカード事業は継続すべきであり、市の負担が増えてもよい」を選んだ理由

- ・ 市民のアシがなかったら大変不便ですので、病院へ行くにも買い物に行くのに用事があるのにと行動が制限されます。それは困ります。

- ・これで交通事故が減ればいいと思います。
- ・子育て支援は積極的であるが、高齢者も支援することが必要で、高齢者が住みにくい旭川になりつつあるのでは？
- ・利用者の負担は多変だから。
- ・消費税、電気料、国保料等々高齢者にとっても生活をするにおいて厳しい現状です。バス路線が維持され、高齢者の足を維持するためにも是非とも寿バスカード事業を継続していただきたいです。
- ・高齢者に関して負担を増やすことに反対です。健康保険料も安くはありません。介護保険料もです。他の予算を削ってでも守るべきだと思います。議員数減らしても良いのではないですか。
- ・高齢者の行動範囲の拡大、CO₂ 対策、中心市街地の活性化のためにも小型バス等による増便、交付負担金の撤廃をすれば多くの高齢者が気軽に利用できる優れた政策と言える。財源についてはムダな補助金や議会費等を削減し確保すべき。
- ・高齢者に使うお金は市の負担で行ってほしい。外に出ることで元気になる。
- ・無くなったら免許返納する高齢者が減って事故が増える可能性があると思うため
- ・物価が上昇している中、年金生活者の生活が厳しくなるような事は避けるべき。負担増がどの程度になるか具体的に示されていないので、負担増がやむを得ないと回答は出来ない。
- ・寿カードがあることによって 外へ出たいと思う人がいると それだけ人と接触することが増えます 認知症への予防にもなると思います。
- ・高齢者にとって貴重な移動手段に制限を設けるのはよろしくないと思う。もし制限をするのであれば高齢者による重大な車の事故も増えるのではないかと思う。
- ・高齢化や免許証返納に伴い移動手段が限られる。タクシーは便利だが料金が高い。地域の商店も閉店され近くに無く、買い物は郊外や遠くの大型店に限られます。対象者は増える傾向ですが、利用者は減る傾向です。このため現在の 70 歳以上からの対象者を継続してもらいたい。お年寄りが外に出やすい環境は元気な身体の維持にも繋がり、医療費の軽減にもなると思います。
- ・昨今高齢者の免許返納はよく聞く話ですし、高齢者の運転によって悲しい事故が生じているのが事実です。旭川でそのような事故が起こってほしくありません。免許返納は積極的に進めていくべきであり、その後も高齢者が QOL を維持して生き生きと過ごすために外出は欠かせないでしょう。交通手段としてタクシーは便利である一方で個人の負担は多くなります。手軽な交通手段としてバスの利用を推進してほしいです。予算はふるさと納税や観光産業などに力を入れ、できるだけ捻出していただきたいです。また無駄な予算は廃止してほしいです。例えば今回のアンケートに関してですが、スマホ世代に紙でのアンケート用紙や封筒の送付は無駄です。どんな媒体だろうと回答しない人は回答しません。若い市長のもと、財源の見直しが良き方向へ進むことを期待しています。
- ・旭川市としては高齢者への負担増になる政策は行わないようにすべき。財源の確保は賢い行政の仕事かと。
- ・制度による旭川の経済効果が、市の負担金額を上回っていれば継続すべきであり、

また旭川の高齢者の人口比率から経済効果の表れるバスの運行を実施する事により、住みやすい旭川市を実現する事で日本全体としての人口減少問題を自治体での取組により、少しでも抑制出来ればより良い旭川市になると思います。

- ・高齢者・障害者のための公共交通手段を維持する必要がある。年間2億円は大きな金額であるが、それによってバス路線が維持されているという面もあるのではないかな。バスに代わる公共交通手段が実現できないのであれば、寿バスカード事業は縮小すべきでない。
- ・高齢者のバス利用補助により運転免許証返納促進を期待するため。
- ・高齢化社会の中で仕方がないこと。
- ・無駄な事業等がある為、その事業を廃止にし、予算を確保すれば良い。

●「選択肢4 市の負担が増えるのであれば寿バスカード事業をやめてもよい」を選んだ理由

- ・高齢者も今は年金をもらえてるのでバス代くらい自己負担でいいと思う。
- ・高齢化が進んでいる現況でやめるべき。子供のために予算を使うべきだと思います。
- ・個人差（歩行力とか）も大きくて、年令での区分は考え物だと思う。バスの運転手も不足らしいし…
- ・身障者であれば、それぞれの手帳だけで十分だと思います。
- ・寿バスカード止めるなら 70 代以上の方に現金にて助けてあげる方法もあります。物価上がってきます。苦しいのでは。私も含めて。
- ・家ぞく、子どももなく、一生懸命働いて自分の老後のために資金をためている。自分の費用は自分でが基本。何でも何でも支援しては働き損に思えてしまう。
- ・本来なら利用者が負担するのが当たり前。
- ・70才以上の方が全員バスを利用しているのではないので、市の予算を他へ使った方がいいと思います。
- ・バス停の数や、バスのルートを増やす方にお金を使って欲しい。交通の弁があまり良くない。
- ・何かしらのテコ入れが必要だと思います。
- ・お金の無駄。
- ・お金の使い方おかしい。議員の給料を減らせばいい。
- ・年寄りよりも若い人への予算を。特に教育。
- ・タクシーに乗れば良い。
- ・高齢者にとっては、一人でバスの乗り降りは介助がないと大変なのではないかと思います。タクシーの方が運転手の介助があり安全に利用できると思います。予算の範囲内でタクシーチケットの配布をすることが良いと思います。
- ・現在、物価高や増税、収入減などにより若者の生活はかつてないほどに困窮しており、この事業の継続により市の負担が増え、他の税収で賄おうとしなければいけない可能性があるのであれば、今後まともに生活が出来なくなる若者も出てくるかもしれない。もちろん高齢者へのサポートは大事だが市が何より大事にしなければならないのはこれからの旭川市を支える若者なのではないのだろうか。

- ・物価上昇でガソリン代も高いし、もうできませんって市が打ち切ってしまっていると思う、なくなればもうみんな諦めるし文句は出ると思うけど仕方なし。
- ・大学院博士前期課程修了の 33 才女性です。アカデミックキャリアを積み、その経験を生かした業界で働いております。北海道出身で、大学入学を機に東京へ転居し、東京で就職した後、U ターン転職で北海道に戻りました。しかし関東で働いていた際は一切感じませんでした。旭川市に戻って就職した途端、正職員であるにも関わらず、自分はワーキングプアであると感じ始めました。低賃金、かといってそれを補うほど物価が低いわけでもなく、越冬のために生活維持費もかかり、文化的なモノに溢れていない街に住み続けているという認識が付き纏い、生活水準が大幅に下がりました。私の属性(年齢、独身等)では税金を納め、還付はゼロという感覚が拭えません。私のような者は旭川市に住み続けてほしい層ではないのだと感じ続けています。札幌や東京へ転居した方が良いと考え始めるほど、旭川市に住むメリットが感じられません。一番スルー、放置されている層であると感じているので、それ以外の層にこれ以上予算増減をする事には賛成できません。また所属組織でも、寿バスカードを所持しているにも関わらず、正規のバス代を交通費として組織に請求する者が後を立ちません。
- ・我々世代への還元が全くない。高齢者の利用によりバス路線が維持されるという考え方があるのなら、わざわざ補助をする必要があるのか、補助をしなくても必要なら利用するのではと考える。
- ・財政難になるより可

●「選択肢 5 その他」を選んだ理由

- ・移動手段の確保のために必要なのはバスだけなのか？という疑問がある。バスは本数も限られ、目的地までの乗り継ぎ等利便性に欠けるので利用者が少ないのでは？対費用効果を考え、別の手段で高齢者の移動手段の確保・支援策を考えるべき。例：年間 20 回、公共機関（市役所・駅・空港・美術館・図書館）・病院が行先となる場合にタクシー代を負担・援助するなど。
- ・路線バスは利用者が 1 人でも 30 人等でも走らせるための経費に違いは大きくないのでは？なら、高齢者が増えて利用者が多くなる方が利益も増えると考えます。そもそも、寿バスカード事業の予算の計算方法は適切に出されているのでしょうか。高齢者が外出を控えるようにならないように市民全員で支えていきたいと考えます。
- ・運転免許の早期返納や健康維持のための外出は高齢者にとって大切であり、バスは必要。
- ・高齢者の優遇制度は、できるだけ少なく！！
- ・少ない年金収入からバス代往復又はのりかえ往復すると、かなりの金額になりますので高齢者の用件や活動をせざるを得ないことはやめてほしい。一律に発行するのではなく収入のライン低収入の方には支援を続けてください。物価も上がり年金も上がりません。収入により線引きすると財政面において変化すると思います。
- ・高齢化、過疎化が進むと予想される中で上記のような方法等で持続可能または別方法を検討してはいかがでしょうか。

- ・高齢者の移動手段の課題は国全体の問題であるため。
- ・高齢者のドライバーの受皿としても大事だと思う。税金を納めていた方々が恩恵を受ける側になっただけだと思う。
- ・寿バスはあれば良い人もなくてもいい人も居ると思います。なければ本当に困る人もいるでしょう。もし私であればある方が助かりますね。
- ・高齢化が進むのは現実なので、事業は継続すべきだと思うが、市の負担が増えるのは若者にとってしんどいと思う。
- ・寿バスカードを使用出来る人は、健康で歩ける人です。歩けない人は補助が受けられなく不公平！これからますます高齢化が進むのに他の策を考える時期に来てると思います。
- ・路線が不便で利用する気もなし。なぜ一度町（7丁目）に行って乗りかえしなきゃいけないのか。
- ・病気をする前はいつも有りがたく利用させて頂いていた。大勢がお世話になるのだから申し訳ないと思っていたが、実際、生活に困る人も居る。私のところも病気・病気で外出にまだ動かれるうちはバスカードで大変助かった。
- ・給与もなく、年金も少ない高齢者の負担は望まない。生活保護世帯の見直しをすべきだと思う。
- ・88 才まで寿バスカード利用させていただきありがとうございます。現在 91 才病院はハイヤーで。バスの乗り降りができないのでやめにしました。ありがとうございます。
- ・遠隔地は運賃も高く、利用できる交通手段も限られているためです。市内中心部、市街地に住む高齢者の負担が変更されることはやむをえないと思います。
- ・バスは利用しないので。
- ・体が悪いためバスののりおりは出来なく、子供にお世話に成っています。
- ・利用対象者は増加しても過去5年間の状況を見ると利用者は減っている。高齢により自動車免許返納等を考えると寿バスカードが交通手段として必要と成って来ると思う。5年間の実績を見ても金額的にも問題無い様に思う。
- ・この度子育て世代には手厚い措置が採用されてとてもうらやましく思っているのに、頑張って子育てを終えた老人には厳しいのですね。1日も早く死にたいです！！老人には冷たい世の中ですね。
- ・高齢者の移動手段は確保しなくてはいけないと思うので。
- ・電気、ガスなどの高騰のため仕方ないのでは…と思います。高齢者にもわかるよう毎年の金額を報告することで少しでも了承が得る事ができると思います。
- ・免許証の返納を考えている。自宅そばにバス停があり、最近、夫婦で街中へと思っていたがバスは走行せず。不便さを感じている。
- ・市の負担のみに着目するより、高齢者の移動が減ることでどう言った経済効果があるかを考えるべきだと思います。高齢者の消費が増えることによって売上があがり、収入としてどの程度反映されるのか。1 億円の財源で若年層へ支援することで得られる効果を前述のものと比べて決めていただきたい。
- ・遠くに住んでいる高齢者が車を止めないひとつにバス停まで遠いという理由があり

街場有利な一律はどうかと思います。

- ・発行に 2000 円で一回 100 円だと市の負担が多そう。どのくらいの頻度で乗るか分からないので、負担額の上限が見えにくい。
- ・これがということではなく、事業継続には総合的な判断が必要でしょう。
- ・結論、どちらとも言えない。
- ・たとえば 60 歳以上にすれば、全体のバス使用頻度が増え、使用頻度によって値段も変えるなど。また、寿バスカードも必要ではあると感じるが、バス停まで行ったりその場で待ったりすることも高齢者にとって大変なのでは？もっと高齢者のニーズを把握して、高齢者だれもが安心して生活できる旭川にしてほしいです。

●選択肢を選択しなかった方の理由

- ・よくわかりません。今まで寿バスカードを利用したこともないし、旭神に住むようになり孫とバスで駅からバスに乗りましたが、バスの経路に驚きました。4 条通を走り旭神までの遠いのに驚きました。高齢になると長い距離は疲れます。またバス停から家まで遠くて歩くのが大変でした。だから私はバスは利用出来ないと思いました。冬道はなおの事です。
- ・寿バスカードは必要と感じるが、働いている人はどんなに働いても税金が高く全くお金がたまらない。生保、高齢者に甘くしすぎだと思う。生保の人の方がお金を持っています。
- ・継続は一石三鳥です。(1)バスは市の公共交通機関であり、運航維持に必要。路線バスの補助として。(2)中心部などの人出は散々たるものです。30 万人の都市(全国でも)としては最低では？(3)高齢者の外出等の行動範囲が広がり意欲も出るのだから。

質問 11 質問 10 で「2」と回答した方への質問です。寿バスカードを利用できる条件を変更したり、新たに設けることについて、どのように考えますか。次の選択肢 1 から 5 のうち当てはまる番号を、(1) から (7) までの場合について、それぞれお答えください。

選択肢 1 許容できる

選択肢 2 どちらかというとき許容できる

選択肢 3 どちらともいえない

選択肢 4 どちらかというとき許容できない

選択肢 5 許容できない

(1) 70 歳以上という年齢を引き上げること

(2) 2, 000 円(身体障害者手帳等の交付を受けている方は 1, 000 円)の交付時負担金を引き上げること

(3) 寿バスカードが利用できる日(曜日)を限定すること

(4) 寿バスカードが利用できる時間帯を限定すること

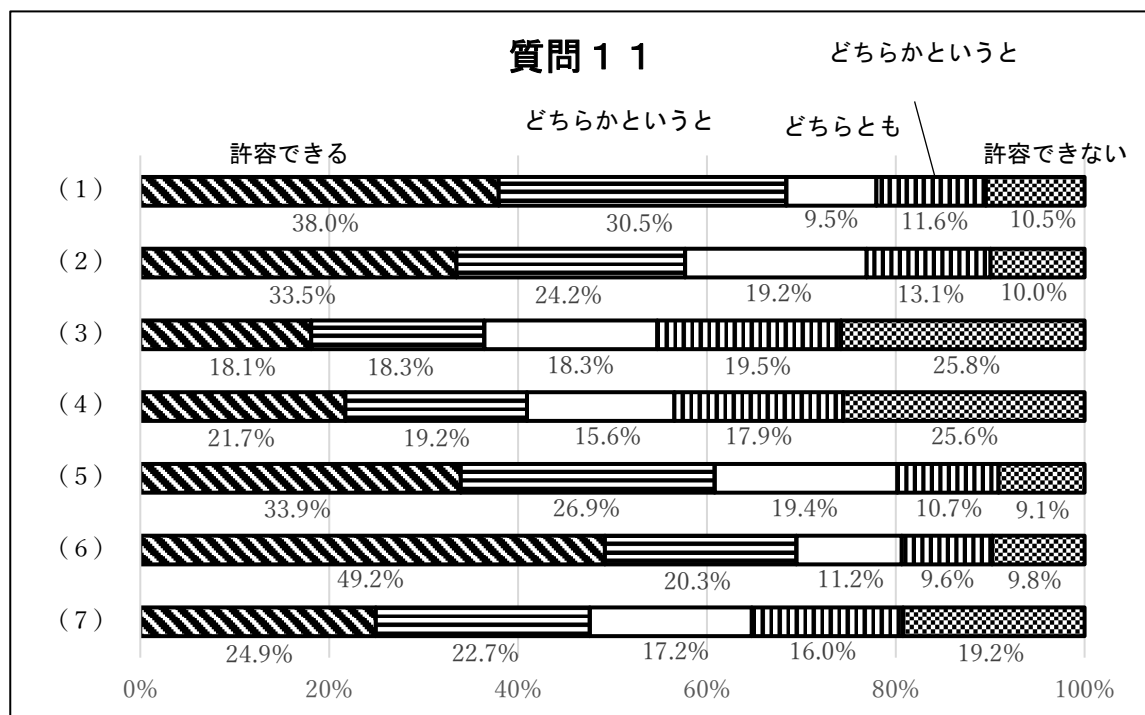
(5) 寿バスカードで利用できる金額に上限を設けること

(6) 所得によって寿バスカードの利用を制限すること

(7) 1乗車100円(身体障害者手帳等の交付を受けている方は50円)の料金を引き上げること

質問11については、前問で、寿バスカードは継続するものの利用条件の変更はやむを得ないと回答した方に対して、(1)から(7)まで、変更する利用条件を提示し、それぞれ、許容できるか許容できないかを5段階で評価していただくものであった。

選択肢 の番号	上段：回答数 下段：回答割合						
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
1	167 38.0%	148 33.5%	80 18.1%	96 21.7%	149 33.9%	216 49.2%	109 24.9%
2	134 30.5%	107 24.2%	81 18.3%	85 19.2%	118 26.9%	89 20.3%	99 22.7%
3	42 9.5%	85 19.2%	81 18.3%	69 15.6%	85 19.4%	49 11.2%	75 17.2%
4	51 11.6%	58 13.1%	86 19.5%	79 17.9%	47 10.7%	42 9.6%	70 16.0%
5	46 10.5%	44 10.0%	114 25.8%	113 25.6%	40 9.1%	43 9.8%	84 19.2%
計	440 100.0%	442 100.0%	442 100.0%	442 100.0%	439 100.0%	439 100.0%	437 100.0%



(1) 年齢の引上げについては、許容できる、どちらかというたと許容できるが合わせて68.5%を占め、許容できない、どちらかというたと許容できないの合わせて

22. 1%に対して、約3倍に上った。

- (2) 交付時負担金の引上げについては、許容できる、どちらかというと言容できるが合わせて57. 7%を占め、許容できない、どちらかというと言容できないの合わせて23. 1%に対し、約2. 5倍に上った。
- (3) 利用できる日の限定については、許容できないが25. 8%で最も多く、その他の意見は18%~19%程度でほぼ拮抗していた。
- (4) 利用できる時間帯の限定については、許容できない、どちらかというと言容できないが合わせて43. 5%を占め、許容できる、どちらかというと言容できるの合わせて40. 9%を少し上回った。
- (5) 利用できる金額に上限を設けることについては、許容できる、どちらかというと言容できるが合わせて60. 8%を占め、許容できない、どちらかというと言容できないを合わせた19. 8%に対し、約3倍に上った。
- (6) 所得による利用の制限については、許容できるが49. 2%で約半数を占めた。どちらかというと言容できるを合わせると69. 5%となり、残りの意見はそれぞれ10%程度ずつであった。
- (7) 乗車時の料金の引上げについては、許容できる、どちらかというと言容できるを合わせると47. 6%を占め、許容できない、どちらかというと言容できないを合わせた35. 2%に対して、約1. 35倍であった。